

明星大学に対する大学評価（認証評価）結果

I 判定

2024 年度大学評価の結果、明星大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は、2025 年 4 月 1 日から 2032 年 3 月 31 日までとする。

II 総評

明星大学は、法人が定める建学の精神「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」に基づき、大学の目的として「広い教養と深い専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、生涯にわたり自律的に学び続け、みなと協働して幸福を生み出していく人の育成を目的とする」ことを定めている。さらに、法人が創立 100 周年を迎えることを機に大学のビジョン「新たな時代を世界の人々と共創する大学」「多摩に根差し、地域に貢献する大学」を定めている。そのうえで、建学の精神及び大学の目的等を実現していくために、「学修者本位の教育の実践」「多摩地域と共に成長・進化する大学」などを目標に掲げた「明星大学第 2 期中期事業計画」を策定するとともに、教育研究活動の充実に向けて取り組んでいる。

内部質保証については、「明星大学内部質保証の方針」を定め、内部質保証の推進に責任を負う組織として「明星大学内部質保証推進委員会」（以下「内部質保証推進委員会」という。）を置き、その下に自己点検・評価を実施・総括するための組織として、「明星大学自己点検・評価委員会」（以下「自己点検・評価委員会」という。）を置くとともに、各部局における、定期的な自己点検・評価を行う組織として、「部局別自己点検・評価委員会」（以下「部局別委員会」という。）を置くことを定めている。全学的な内部質保証の取り組みとして、「部局別委員会」が各部局で、「自己点検・評価シート」を用いて自己点検・評価を実施し、その結果を「自己点検・評価委員会」へ報告している。さらに、「自己点検・評価委員会」が「自己点検・評価報告書」として取りまとめ、それをもとに「内部質保証推進委員会」が全学的な観点から課題・問題点に対する改善方法をまとめて学長へ報告する。学長は「大学評議会」や学長の諮問委員会を活用しながら方針や改善策を決定し、学部長会等を通じて「課題・問題点リスト」と具体的な取り組み内容を各部局へフィードバックしている。これらの取り組みにより、自主的・自律的な自己点検・評価を基盤とした内部質保証システムを整備し、自己点検・評価を進めている。今後は、「学生と学長との懇談会」の実施や外部評価結果の活用などを通じて、更なる内部質保証システムの向上に努め

られたい。

教育については、授与する学位ごとに、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定めており、各学位課程にふさわしい授業科目を開設するとともに、教育課程を体系的に編成している。また、中期事業計画にも掲げている「学修者本位の教育の実践」の実現のため、アクティブラーニングの推進などに取り組んでいる。くわえて、「多摩地域と共に成長・進化する大学」に資する取り組みとして、「明星 SATOYAMA プロジェクト 2022→2025」に取り組んでおり、各学部を横断したクロッシング・プロジェクトとして、学生や教職員、地域住民、自治体、近隣の大学等が参加し、生態調査に基づくビオトープづくりやSDGsを体験するイベント、間伐材を活用した商品開発等の多様な活動を展開している。学生の学びの場にとどまることなく、参加者を公募してキャンパス内の緑地を活用した自然保全や多摩地域の活性化等の地域課題の解決に取り組むなど、学生の成長と大学の知を還元した地域貢献の両面で機能していることは高く評価できる。

一方で、改善すべき課題もいくつか見受けられる。学位授与方針に明示した学習成果の把握・評価について、研究科では、一部の研究科を除き、学習成果の測定にあたり多角的かつ適切な方法を設定しているとはいえないため、改善が求められる。また、一部の学部において、収容定員に対する在籍学生数比率が低いため、改善が求められる。大学院についても、定員未充足が継続的に生じており、さまざまな対応を行っているが、一層の改善に取り組むことが求められる。

多彩な学部・学環・研究科がワンキャンパスに集結している総合大学であるという特長を生かして、多摩地域に根差した分野横断型の教育を進めている。また、「多彩な学びの空間」として新たな交流と新たな学びのきっかけを目指した「MEISEI HUB」において、教職員と学生の意見交換を行う「しゃべり場」の開催など、「学修者本位の教育の実践」に向けたさまざまな取り組みを行っている。これらの取り組みをより深化させるためにも、今後は、内部質保証システムに求められる機能・役割が十分に果たされるよう改善・向上に努めながら、諸課題の解決とともに、特色のある取り組みを発展させながら、大学の理念・目的の実現のために、更なる飛躍を期待したい。

Ⅲ 概評及び提言

1 理念・目的

<概評>

- ① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

法人の建学の精神を「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」として

明星大学

おり、これに基づき教育方針「人格接触による手塩にかける教育」「凝念を通じて心の力を鍛える教育」「実践躬行の体験教育」及び校訓「健康、真面目、努力」を掲げている。また、学苑創立 100 周年を迎えることを機に、2021 年には新たな大学としてのビジョン「新たな時代を世界の人々と共創する大学」「多摩に根差し、地域に貢献する大学」を策定し、このビジョンの実現に向け、大学の教育目標を「生涯にわたり自律的に学び続け、みなと協働して幸福を生み出していく人の育成」としている。

上記の理念に基づき、大学の目的を「広い教養と深い専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、生涯にわたり自律的に学び続け、みなと協働して幸福を生み出していく人の育成を目的とする」として、明星大学学則（以下「学則」という。）に定めている。これを踏まえ、学部・学科、学環では人材養成に関する目的を、明星大学教則（以下「教則」という。）及び明星大学通信教育部教則（以下「通信教育部教則」という。）で明示している。例えば、理工学部においては、「技術立国日本を支え、人類の豊かさに貢献するため、幅広い教養と、理学と工学の知識と技術を基礎とした『科学する心』を持ち、自ら考え行動できる道義心の強い技術者を育成する」と定めている。

大学院の目的については「高度の学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、生涯にわたり自律的に学び続け、みなと協働して幸福を生み出していく人の育成を目的とする」として明星大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）に定めている。これに基づき、研究科においては人材養成に関する目的を明星大学大学院教則（以下「大学院教則」という。）及び明星大学通信制大学院教則（以下「通信制大学院教則」という。）に定めている。例えば、人文学研究科においては、「人文学研究科は、変動著しい環境下に置かれた『人間』とその人間が作り出す『文化』や『社会』に関する諸問題を、各専攻の専門領域の視点から理論的・実証的に研究し、解明することを目指し、高度な専門性と豊かな人間性を備えた専門職業人として社会に貢献する事のできる人材を育成する」と定めている。また、学部・研究科ともに、これらを踏まえて、教育研究上の目的を設定している。

以上のことから、法人の建学の精神に基づき、大学の教育目的及び教育目標を設定し、各学部・研究科において、人材養成その他の教育研究上の目的を適切に設定しているといえる。

- ② 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

大学の理念・目的は、学則及び大学院学則に定め、各学部・研究科における人

材の養成に関する目的は、教則、大学院教則、通信教育部教則、通信制大学院教則に明示している。これらはホームページを通じて広く社会に公表するとともに、学内には教職員向けポータルサイトやクレドカードを通じて、学生には「履修の手引」「大学院便覧」等を通じて周知している。さらに、大学の理念・目的や学部等の目的を周知するために、大学案内等に掲載している。新たな大学のビジョンと教育目標は、「明星学苑創立 100 周年特設ページ」に掲載したほか、記念映像の上映や周年ビジュアルの展開など、多方面にわたりさまざまな方法で周知及び公表を行っている。

以上のことから、大学の理念・目的及び学部・研究科の目的等を適切に定め、教職員及び学生に周知し、社会にも公表している。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現するとともに、2021年度に定めた新たなビジョン及び教育目標を達成するために、2023年度から2027年度までの5年間の「明星大学第2期中期事業計画」を策定した。同計画を策定するにあたっては、経営と教学が協働で事業計画案を作成し、その後、教職員にパブリックコメントを募集し、意見等を踏まえて修正を加えたうえで理事会及び評議員会において承認し、策定しており、教職員の意見を取り入れることで共有を図っている。

2017年度の大学評価（認証評価）結果において、研究科における収容定員に対する在籍学生数比率の低さについて指摘を受け、中長期事業計画には「大学院教育のあるべき姿を検証し、人材育成の目的を再定義したうえで、策定した改組改編計画を実行する」ことを明記し、認証評価の結果を反映している。

中期事業計画の推進にあたり、掲げられた事業を各学部・研究科及び事務組織の単年度の事業計画に反映させ、その推進管理を「理事長・学長室ユニット」が行っている。各学部・研究科における目標の達成に向けて、各年度の期首・期中・期末を予算と一体となった「教育研究活動 計画書兼報告書」で進捗管理を行っている。

以上のことから、理念・目的の達成に向けて中期計画を適切に定め、実行の体制を適切に構築し、運用を開始している。

2 内部質保証

<概評>

① 内部質保証のための全学的な方針及び手続を明示しているか。

「明星大学内部質保証の方針」において、内部質保証（設置目的の実現に向け

た教育研究活動等の自己点検・評価を行い、改善・向上に努め、適切な状態・水準にあることを保証する恒常的・継続的プロセス)の推進に責任を負う「内部質保証推進委員会」、自己点検・評価の実施に関わる「自己点検・評価委員会」、各部局における定期的な自己点検・評価を行う「部局別委員会」を定め、自己点検・評価の実施に関わる組織を大学レベル、学位プログラムレベル、授業レベルの3水準に分けて構築することとしている。また、「各組織における教育の内部質保証に向けた活動」及び「内部質保証システムの有効性を高めるための取り組み」として、自己点検・評価の基本方針の策定、自己点検・評価の実施とその結果の活用、改善に向けたファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)活動の実施等について定めるとともに、3つの方針に基づいて教育の企画・設計、運用、検証及び改善・改革を行う手続としている。

この「明星大学内部質保証の方針」は、ホームページを通じて広く社会に公表するとともに、教職員向けポータルサイトを通じて学内で共有している。

以上のことから、内部質保証の方針及び手続を設定し、適切に明示しているといえる。

② 内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備しているか。

大学全体の内部質保証体制は、「内部質保証推進委員会」が「自己点検・評価の基本方針」を策定し、これに基づいて「自己点検・評価委員会」及び「部局別委員会」が定期的な自己点検・評価を行い、その結果を「内部質保証推進委員会」が全学的観点から検証し、学長へ改善提案を行う構造となっている。学長は必要に応じて「大学評議会」や学長の諮問委員会を活用しながら方針や改善策を決定し、学部長会等を通じて各部局へフィードバックすることで、各部局が改善活動を行う一連の手続・体制としている。

これらの組織の権限と役割等は「明星大学自己点検・評価規程」に定めている。「内部質保証推進委員会」は、副学長、学苑・大学事務局長、学苑・大学企画局長、学長が必要と認めた者から編制し、自主的・自律的な自己点検・評価を基盤として内部質保証を推進する。「教務部会」「学生生活部会」「入試部会」は、それぞれ「明星大学学長の諮問委員会に関する細則」に規定している「全学カリキュラム検討委員会」「全学学生生活委員会」「全学入試運営委員会」の構成員から編制し、自己点検・評価結果に基づく検証及び改善方法の検討を全学的な観点から行うこととしている。「自己点検・評価委員会」は、副学長、学部等の長、大学院研究科長、通信教育課程長、全学共通教育委員会委員長、学苑・大学事務局長、学苑・大学企画局長、その他学長が必要と認めた者から編制し、全学的な自己点検・評価を実施している。「部局別委員会」は、学内組織に応じて設置し、各部局の長と各部局の長が指名する教職員若干名で編制し、各部局における自己

点検・評価を実施している。

また、「明星大学内部質保証推進委員会が求める外部評価の実施要領」において、外部評価の頻度、外部委員の選出、外部評価の手法等を明示し、外部委員が公正な評価を実施できるように、外部評価の評定の目安、外部評価シートを定め、外部委員による内部質保証体制とそのシステムの有効性、自己点検・評価の客観性・妥当性を点検・評価する体制を整備している。

以上のことから、「内部質保証推進委員会」「自己点検・評価委員会」「部局別委員会」をはじめとした委員会に加え、外部評価体制も整備していることから、内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備しているといえる。

③ 方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。

「3つの方針策定のための全学的な基本方針」において、3つの方針の定義を掲げ、同方針の策定単位は原則的には学位プログラムであることを定めている。また、「基準4 教育課程・学習成果」「基準5 学生の受け入れ」で後述するように、同方針において、3つの方針の策定にあたっての留意事項及び3つの方針の改定に関する手続について定めている。各研究科・専攻の3つの方針については、大学院の定員未充足問題を含めた大学院の活性化施策と並行して検討を進めたことから同方針に準拠させる改定が遅れたものの、現時点では、整合がとれている。なお、教育学部（通信教育課程）及び教育学研究科（通信教育課程）の学生の受け入れ方針は、大学として、今後の通信教育課程のあり方と併せて検討するとしていることから、同方針との整合性も含めた検討が望まれる。

全学的な内部質保証の取り組みは、「明星大学内部質保証の方針」に基づき「内部質保証推進委員会」「自己点検・評価委員会」「部局別委員会」を中心とした組織のもと、教育の内部質保証について、大学レベル・学位プログラムレベル・授業レベルの3つの水準に分けて構築することを明示している。授業レベルにおいては、「学生による授業改善のためのアンケート」を実施し、この結果に基づいた改善アクション等を「授業改善実施記録」として作成している。学位プログラムレベルにおいては、「部局別委員会」が毎年度、学部・研究科その他の組織における自己点検・評価を実施し、その結果である「自己点検・評価シート」を「自己点検・評価委員会」へ報告している。大学レベルにおいては、「自己点検・評価委員会」が「自己点検・評価報告書」を取りまとめ、それをもとに「内部質保証推進委員会」が全学的な観点から課題・問題点に対する改善方法の提案をまとめて学長へ報告する。学長は「大学評議会」や学長の諮問委員会を活用しながら方針や改善策を決定し、学部長会等を通じて「課題・問題点リスト」と具体的な取り組み内容を各部局へフィードバックしている。これらの取り組みを通じて、改善・向上に向けた全学的な取り組みを周知している。ただし、「授業改

善実施記録」を作成している教員が一部にとどまることから、授業レベルのPDCAサイクルにおいて取り組むべき内容・方法を教員へ周知したうえで、課題に対する適切な改善アクションにつなげることが望まれる。

内部質保証システムの有効性を高めるための取り組みとして、「明星大学SD・FDに関する規程」を定め、「明星大学SD・FDに関する基本方針」に基づいて全学的に、スタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）、FDを実施していること、「学部等と学長との意見交換会」を毎年度実施することで学長が全ての教員と意見交換している。また、自己点検・評価への学生参画については、学生と教職員との意見交換の場として「しゃべり場」が開催されている一方で、「明星大学内部質保証の方針」に定めた「学生と学長との懇談会」は直近では開催されていないことから、今後は学修者本位の教育の実現のためにも同方針に基づく手続を実行することが望まれる。

「内部質保証推進委員会」は、各年度「自己点検・評価の基本方針」を作成し、これに基づき全学的な自己点検・評価活動を実施している。また、「自己点検・評価シート」の作成による各部局の点検・評価活動の可視化、「教育の内部質保証ガイドライン」の作成により、各部局の点検・評価活動に対する支援を行っている。さらに、他の「部局別委員会」が作成した「自己点検・評価シート」を評価しあう「ピア・レビュー」を実施している。これらの取り組みにより、各学部・研究科等における自己点検・評価活動及び改善・向上に係るプロセスを運営・支援している。

自己点検・評価に基づく改善については、「明星大学自己点検・評価報告書に基づく改善提案について（答申）」を踏まえて教育の充実、学習成果の向上等の取り組みを行っている。しかし、「自己点検・評価シート」で顕在化した課題・問題点に対する改善アクションが明確に示されないまま翌年度に繰り返し指摘されるケースや、「自己点検・評価シート」において該当する点検を行っていない、あるいは、未記入の部局が散見されるため、大学レベル、学位プログラムレベルのPDCAサイクルにおいて取り組むべき内容・方法を明確にしたうえで周知し、「明星大学内部質保証の方針」に定めた改善活動を行うことが望まれる。

行政機関、認証評価機関からの指摘等への対応については、設置計画履行状況等調査における指摘はなく、2017年度の本協会の大学評価（認証評価）結果における指摘事項に対して、改善に取り組んでいるが、教育学研究科博士前期課程、同研究科博士後期課程、理工学研究科博士後期課程、情報学研究科博士後期課程で在籍学生数比率が低いことに対する改善効果は不十分であるため、学部教育と大学院教育の一体化をはじめとした教育改革を推進することが求められる。

以上のことから、方針及び手続に基づき、内部質保証システムが概ね機能しているといえる。ただし、授業レベルにおいて「授業改善実施記録」の作成を教員

へ十分に周知するとともに、大学レベル・学位プログラムレベルにおいて点検・評価の精度を上げるための取り組みが望まれる。なお、「学生と学長との懇談会」については、学修者本位の教育の実現に向けて、定期的な実施による内部質保証システムの向上を期待したい。

④ **教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。**

社会に対する説明責任を果たすために、「学校法人明星学苑情報公開規程」「明星大学教育情報の公開に関する細則」に基づき、教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を大学の刊行物、ホームページ等により学内外に発信している。これらの情報公開は、「明星大学教育情報の公開に関する細則」のとおり、定期的に公開している。また、教職課程の点検・評価結果についてもホームページで公開している。

以上のことから、教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしていると判断できる。

⑤ **内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

内部質保証システムの適切性の点検・評価は、項目③で既述した定期的な点検・評価の一環として行っている。「理事長・学長室ユニット大学企画チーム」が、本協会が定める大学基準に基づいて素案を作成し、自己点検・評価報告書として「自己点検・評価委員会」が取りまとめ、最終的に「内部質保証推進委員会」が全学的な観点から検証している。さらに、「明星大学内部質保証の方針」のなかで、「学生と学長との懇談会」を定期的に行い、学修者の視点による内部質保証システムの機能評価をすと定めている。また、外部評価制度も設け、内部質保証システムの客観性・妥当性の確保に努めている。しかしながら、「学生と学長との懇談会」は直近では開催されておらず、外部評価の結果を踏まえた改善・向上に向けた取り組みも不明瞭であるため、今後は「明星大学内部質保証の方針」に定めた手続と、外部評価結果の活用が望まれる。

一方で、内部質保証システムの改善・向上に向けた取り組み結果として「外部評価制度の導入」「FD・SDの推進体制の構築」「教務部会構成員の見直し」等の成果が認められる。

以上のことから、内部質保証システムの適切性について、定期的な点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けて取り組んでいる。今後は、「学生と学長との懇談会」の実施や外部評価結果の活用等による更なる内部質保証システムの向上に努められたい。

3 教育研究組織

<概評>

- ① 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。

建学の精神、ビジョン、教育目標をもとに、学部では、理工学部、人文学部、経済学部、情報学部、教育学部、経営学部、デザイン学部、心理学部、建築学部の9つの学部及び学部等連係課程としてデータサイエンス学環を設けている。また、大学院には、理工学研究科、人文学研究科、経済学研究科、情報学研究科、教育学研究科、心理学研究科の6つの研究科を有している。さらに、学部において教育学部、研究科において教育学研究科の通信教育課程を有している。

附属教育研究機関としては、図書館、国際教育センター、明星教育センター、情報科学研究センター、連携研究センター、心理相談センター、教職センターを設置している。なお、「学生支援ユニットウェルネス・UDサポートチーム」（ユニバーサルデザインセンター）による障がい学生に対する修学支援体制が構築されたことに伴い、2023年度に「発達支援研究センター」を廃止している。

以上のことから、広く文理にわたる学部・学科、研究科を有しており、実践的かつグローバルに活躍する人を輩出するとしている大学の理念・目的に照らした構成といえる。

- ② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

教育研究組織の適切性の点検・評価は、内部質保証システムの一環として、「自己点検・評価委員会」のもと、「理事長・学長室ユニット」が各部署との連絡・調整を担うことを通じて毎年自己点検・評価を行い、その結果を「内部質保証推進委員会」に報告している。

教育研究組織の改善・向上に向けた取り組みとして、上記の自己点検・評価の結果に基づくものではないものの、「発達支援研究センター」を学長の所掌会議で検討し、廃止することを機関決定している。今後、大学院のあり方についても検討を進めるとしているが、全学的な内部質保証体制のもと、自己点検・評価を通じて明らかになった課題について、「内部質保証推進委員会」を中心に改善・向上に向けて取り組むことを期待したい。

以上のことから、教育研究組織の適切性について、定期的に点検・評価を行っており、改善・向上に向けた取り組みを行っているといえる。

4 教育課程・学習成果

<概評>

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

学位授与方針については、大学全体で「3つの方針策定のための全学的な基本方針」において、定義を明示し、策定にあたっての留意事項を示している。また、教育目的、ビジョン、教育目標及び学部・学科等の人材養成に関する目的に基づき、学位プログラムごとに学位授与方針を定めている。

学部の学位授与方針については、同方針に基づき、「課題発見・解決」「思考・判断」「関心・意欲・態度」「知識・理解・表現」「技術・技能」の5項目で構成している。例えば、建築学部建築学科の学位授与方針は、「建築学の専門知識に基づき、都市や地域が抱える今日的課題を発見し、その解決案を提案できる」「建築学に関する幅広い専門知識を身に付けている」「建築における総合的（意匠、計画、環境、構造）な設計を行うことができる」等の8項目を身につけるべき能力として定めている。ただし、教育学部（通学課程）における学位授与方針は、11コースで取得可能な免許が異なることから、詳細な学位授与方針を設定するのは困難としているが、学修者本位の観点から、学生が達成すべき成果をより具体的に理解できるよう、明示上の工夫が望まれる。

大学院の学位授与方針については、現時点では全学的な基本方針に準拠していないものの、各研究科・専攻が、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」に沿って策定している。例えば、理工学研究科建築・建設工学専攻博士前期課程の学位授与方針は、「建築物を取り巻く社会的背景や空間特性、機能性を読み解く力を有している」「技術者倫理を理解し、種々の条件・制約を踏まえて、建築物の立案、設計、プレゼンテーションをすることができる」「計画から工事監理までのプロセスを理解し、専門家としてそれを実践するための能力を有している」等の9項目を身につけるべき能力として定めている。今後、「内部質保証推進委員会」において、研究科・専攻と全学的な基本方針との整合性については今年度中に検討を開始するとしている。

これらの学位授与方針は、「履修の手引」や「大学院便覧」、ホームページを通じて公表している。

以上のことから、授与する学位ごとに、概ね学位授与方針を定め、公表している。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

学部の教育課程の編成・実施方針は、「3つの方針策定のための全学的な基本方針」において、「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の達成のために、『どのような教育課程を編成し、どのような内容をどのような方法で教育し、そ

の学修成果をどのように評価するのか』を定める基本的な方針とする。」と明示しており、「教育課程編成の考え方」「教育方法の考え方」「評価方法の考え方」の3つの区分に分けて定めている。例えば、データサイエンス学環では、「教育課程編成の考え方」については「基礎学力及び幅広い教養を培う『全学共通科目』、社会人としての自立できる能力と意欲を養う『全学共通キャリア形成科目』、データサイエンスの専門知識を学ぶ『学科等科目』の3区分に大別し、体系的に編成する」こととし、「関係協力学部との関係した教育課程の実現」等の5項目を明示している。「教育方法の考え方」については「学部等連係課程としての学部横断型の学び」「演習・実習による実践的な学び」等の4項目を明示している。

大学院の教育課程の編成・実施方針は、「教育課程編成の考え方」「教育内容・方法」「学修成果への評価」という基本的な考え方に基づき、専攻及び課程別に方針を定めている。例えば、経済学研究科応用経済学専攻修士課程では、「教育課程編成の考え方」に関して「『経済専門コース』『企業マネジメントコース』『会計・税務コース』の3つのコースを設け、専攻科目を経済学の基礎的素養を修得するための『選択必修科目』、各コースに応じた『選択科目』、及び『論文指導科目』に区分し、体系的に教育課程を編成する」こと、「教育内容・方法」に関して、「知識教授を主眼にした教育と『論文指導科目』による論文執筆指導を通じた個別指導を組み合わせる」ことを明示している。現時点ではこれらは全学的な基本方針に準拠していないものの、大学院の活性化に向けた取り組みと併せて、「内部質保証推進委員会」において全学的な観点から検討を行い、今年度中に方向性を議論して答申する予定としている。

課程修了にあたって学生が修得すべき学習成果（知識・技能・態度等）である「評価方法に関する考え方」に関して、学部では「評価方法の考え方」、大学院では「学修成果への評価」に明示している内容は、授業レベル・学位プログラムレベルを整理して策定することを今年度中に検討を開始するとしている。

具体的な教育方法については、「履修の手引」「大学院便覧」やホームページを通じて教職員や学生に周知し、学外にも公表している。また、学位授与方針との関連性を明示するために、カリキュラム・マップを作成し、教育方法と同様に適切に公表している。

以上のことから、全学的な方針に基づいて授与する学位ごとに教育課程の編成・実施方針を明示・公表しているといえる。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

全学部・研究科において、各授業科目のカリキュラム・マップやナンバリング、

カリキュラム・ツリーにより、その順次性・体系性を可視化している。カリキュラム・マップには、学位授与方針と各授業科目の関与度を示している。講義、演習、実験・実習などの授業形態による単位数は、学則及び大学院学則で定めている1単位に必要とされる学習時間に応じて設定している。また、学則に、2学期制を採用し、各学期において授業時間を15週で開講することを規定している。

2023年に刷新した全学共通科目では、「現代社会での生き方を考える」「多摩に学ぶ」など、大学のビジョンや学習目標と関連する7つの科目グループを複数の専門分野の教員からクロッシング（分野交差）する授業科目を配置している。さらに、「明星教育センター」のもと、「全学共通キャリア形成科目」として「社会とキャリア」「キャリアデザイン基礎」等の科目を配置しており、学部横断的に全学共通科目として初年次に開講される「学びとキャリア」を加えた6科目を、学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を展開している。

各学部・学科、学環の教育課程における授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針に基づいて編成している。例えば、デザイン学部デザイン学科では、「企画表現演習科目」を1年次から3年次まで開設し、対話・文章作成などの基礎から調査・分析、発想、プレゼンテーションまで、学部の理念である「デザイン＝企画×表現」を段階的に学ぶ編成となっている。学部・学科では、社会的・職業的自立を図るキャリア教育の科目を置いている。例えば、経営学部経営学科では「経営基礎1・2」で基礎的な考え方を学び、「キャリア開発1～4」で業界分析、グループディスカッションを通じて調査、考察、伝達能力の向上を図るなど段階的なカリキュラム編成となっている。

研究科・専攻では、専攻科目を研究科目と論文指導科目等に区分し、教育課程を体系的に編成している。例えば、人文学研究科国際コミュニケーション専攻博士前期課程では、「領域横断科目」「言語学研究領域」「文化研究領域」などの科目群に分けられ、研究方法や専門的知識を修得させる「研究科目」と、研究課題を体系的に考察し、研究手法を用いて修士論文の作成を可能にする「論文指導科目」を配置している。さらに、同博士後期課程では、博士前期課程の「言語学研究領域」「文化研究領域」など4領域を高度専門化した「特殊研究科目」と、3年間を通じて博士論文作成のための研究遂行能力を身に付けさせる「論文指導科目」を配置している。

学修者本位の教育の実現を目的として、2022年に「適正なカリキュラム運営のためのガイドライン」を作成し、カリキュラム改編は学長が「全学カリキュラム検討委員会」及び「内部質保証推進委員会」の意見を聴いたうえでやっている。その際には、改正の趣旨、人材養成の目的、3つの方針、カリキュラム・マップなどについて同委員会で協議し、学長を通じて学部長にフィードバックしている。

このようにガイドラインを策定したことで、教育課程の編成にあたって、「内部質保証推進委員会」等の大学組織のマネジメント及び支援体制を構築したことは評価できる。

以上のことから、教育課程の編成・実施方法に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているといえる。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

教育方針を実践するため、学部・学科、研究科がアクティブラーニングを導入している。例えば、理工学部総合理工学科では「プロジェクト1」で、地域の子どもたちに理工系分野に興味をもってもらうため「夏休み科学体験教室」を実施して、初年次より主体性を涵養する授業を設定している。理工学研究科電気工学専攻では、「電気工学特論A・B」で他大学の大学院学生と学び、国内外の最新の技術的問題を学ぶ環境のなかで、大学内では得ることのできない知見に触れ、学びの機会としており、学位や学年の学習内容に応じたアクティブラーニングを実施している。

学部横断型プロジェクト「明星 SATOYAMA プロジェクト 2022→2025」では、複数の学部の教職員や学生が相互に連携しながら活動し、各教職員は授業、ゼミ、ボランティア、サークル等の参加を視野に入れて推進している。例えば、建築学部は学内外の人々の憩いの場になる東屋の設計を、理工学部はホテル池の保全や間伐材の資源化を進めており、各学部が「多摩の里山を楽しむキャンパス」という大学の基本理念に基づく専門領域を生かした取り組みを行っている。これらは全ての学部がひとつのキャンパスにある立地を有効に生かし、学生の広く深い学びの実践に寄与し、周辺地域にも貢献する試みとなっている。

各授業科目における学生数については、経営的に持続可能な学修者本位の教育の実現を目的とした「適正なカリキュラム運営のためのガイドライン」に基づき、クラスサイズの下限を定めている。教育学部教育学科では教職科目、実習指導科目において履修者数の制限を設け、クラス分けを実施しており、上限措置については次期カリキュラム改正に向けて検討している。履修ガイダンスは全学部学生、大学院学生に向けて実施しており、各学科等の教員が「履修の手引」「大学院便覧」「学生時間割表」「履修登録マニュアル」等の資料に基づいて履修指導を行っている。資料はLMS（Learning Management System：学習管理システム）を通じて配付し、いつでも閲覧可能な状態である。また、全学部で教員のオフィスアワーを設定し、授業の質問や相談の機会を設けている。研究科・専攻の研究指導計画は、「大学院便覧」に学位取得までのスケジュール、研究テーマの決定、研究関連文献の整理、研究指導計画書の提出など、研究指導方法を明示している。

学部においては、単位の実質化を図るために、事前事後の学習時間と内容を 15

回の授業計画に設定し、シラバスに明示している。また、学則で1年間に履修登録できる単位数の上限を定めている。シラバスは「教務ユニット教務チーム」から案内する「シラバス作成要領」に基づいて、授業担当教員が作成し、学部長・学科主任、学科教員がチェックする他、授業内容との整合性を「学生による授業改善のためのアンケート」によりチェックし、その適切性を担保している。

以上のことから、各学部・研究科がアクティブラーニング等の主体性を育てる授業科目を設定し、学生の学習を活性化している。また、単位の実質化を図るための措置、シラバスの作成と活用等は学則及び教則に定め、教職員や学生にも情報を共有し、効果的な教育を行うための措置を適切に講じているといえる。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

成績評価は、学部では教則の「成績の評価、評語及び評価基準」に基づき、5段階評価による科目の成績をグレードポイントにより標準化し、GPAを算出することを定めている。シラバスに成績評価方法及び基準等を明示し、透明性のある成績評価を適切に実施している。各授業科目の成績評価分布状況については「教学IRデータ」として全学的に可視化している。その結果、現状では成績評価の揺れや偏りが見られるため、「全学教務委員会」において、問題の共有と具体的方策を検討すると同時に、学部・学科、学環の教授会で確認し成績の標準化を図っていくとしているため、その成果に期待したい。

単位認定については、「既修得単位の認定に関する細則」に基づいて、入学前に在学した大学又は短期大学等の在学期間に応じた認定単位上限数を設定している。卒業要件は、学部・学環では学則に規定しており、教則に学位授与方針を踏まえて、各教授会が定める卒業に必要な単位数などを規定している。学生には「履修の手引」や履修ガイダンスを通じて周知している。研究科では、修士・博士それぞれで、大学院教則に各研究科が定める修了に必要な単位数などを規定している。学位論文審査基準についても大学院教則に規定するとともに、課程ごとに学位論文審査基準及び特定課題研究の審査基準を内規として定め、これに則って審査を行っている。学生には「大学院便覧」や履修ガイダンス、LMSなどを通じて周知している。

学位授与については、学部においては、卒業に必要な単位数の修得状況を確認し、教授会が単位授与にふさわしい候補者を決め、学長が学位授与を行う。研究科においても、単位数の修得状況、学位論文審査及び最終試験結果を確認して、「研究科委員会」が候補者を決め、学長が学位授与を行う手続となっている。また、学位審査の客観性及び厳格性を確保するため、教授会の審議以外の措置をとっている。例えば、心理学部心理学科では、心理学部及び研究科の全学生が参加する研究成果の発表会を行っており、参加者が4年次の卒業研究の内容を確認

すると同時に、教員が審査を行っている。研究科では、論文の審査は「学位論文審査委員会」が行うことを大学院学則で定めている。論文審査に係る主査及び副査は、「研究科委員会」の議を経て決定している。

以上のことから、成績評価の客観性、厳格性の担保に努めるとともに、単位認定及び学位授与を適切に行っているといえる。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

学習成果の把握・評価については、2022 年度に策定した学士課程のアセスメントプランに基づいた組織的運用に向けて準備をしている。評価区分は直接評価（成績評価やGPA等）と間接評価（学生調査やアンケート）で、大学全体レベル、学位プログラムレベル、授業科目レベルの3つの水準で整理している。この指標・データの収集・活用は、「教育の内部質保証ガイドライン」を策定して指標・データの内容と収集管理組織及び分析組織を明示している。例えば、GPAや入学時アンケートの分析結果は「教学IRデータ」として教職員向けポータルサイトや学部長会を通じて共有している。

学位授与方針に示した学習成果を測定するための指標や測定方法については、現在、全学的にDP到達度評価システム構築を進めている。学生が学習を自律的にマネジメントする「学修者本位の教育」の実現のために、各学位プログラムの学位授与方針に基づき入学から卒業に至る学習を、PDCAサイクルを通じて把握し、学生が卒業や社会的自立をもって自らの質保証を達成することを目標にしている。この実現のために、DP到達度を学生にフィードバックして「自身の学びの現在地」を把握してもらうよう、DP到達度評価をレーダーチャートで表示する可視化システムを2023年度より導入している。例えば、理工学部総合理工学科の環境科学系では、日本技術者教育認定機構（JABEE）による評価審査に対応すべく、「学生別到達度評価レポート課題」を設けて、学生は、毎回レーダーチャートに基づく自己分析、今後の履修及び学習計画等を記述し、提出するとしている。人文学部日本文化学科では、DP到達度に関わる評価指標の検討を進めており、この指標に基づき教員と学生がDP到達度を管理・運用するための「DP到達度記録ファイル」を開発している。ただし、各学部のDP到達度評価システムは試行的な状況であり、各学部の担当教員と大学企画チームの職員が連携して、設定の調整を行っている。今年度中にDP到達度評価システムを確立することを目標にしていることから、各学位プログラムの学習の実態に合わせた学習成果の測定の実現が望まれる。

研究科については、修得単位数が少ないことや論文等の成果が重視されることから、学士課程とは異なる方法や基準が必要であるとしている。理工学研究科化学専攻では、「DP到達度評価シート」を使用した学生へのフィードバックの取

り組みを行っており、これを参考に各研究科が独自の評価システムの検討を進めている。ただし、各研究科での学習成果の測定方法は多角的かつ適切な方法が設定されているとはいえないため、「内部質保証推進委員会」の支援により学習成果を適切に把握・評価できるよう改善が求められる。

以上のことから、学生の学習成果の把握・評価にあたり、学士課程では、各学位プログラムの学習の実態に合わせたD P到達度評価システムの確立が望まれる。研究科では、学習成果の測定方法について、多角的かつ適切な方法が設定されているとはいえないため、改善が求められる。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

教育課程・教育方法の適切性の点検・評価は、本協会が定める大学基準に基づき、学部等の各部局が毎年行っている。その結果に基づき、「自己点検・評価委員会」が全学的な観点から点検・評価を行っている。この結果は「内部質保証推進委員会」に報告し、同委員会が、全学的な観点から検証、改善方法の検証を行い、学長に提案している。なお、根拠となるデータは、アセスメントプランに基づき、「教務ユニット教学企画・学修分析チーム」が「教学IRデータ」として教職員向けポータルサイトや学部長会を通じて学内で共有しており、データの活用方法は「教育の内部質保証ガイドライン」に示している。

これらの点検・評価の結果に基づく、改善・向上に向けた取り組みとして、例えば、教育学部教育学科では、「教務ユニット教学企画・学修分析チーム」の分析結果、「1年前期GPAのトレンド」「教員採用試験合否のトレンド」の考察を中心に教職課程及びその内容・方法の適切性について点検・評価し、部局別FDを通じて改善・向上に向けた取り組みを行っている。なお、2022年には全学的にカリキュラム・マップとナンバリングの点検及びカリキュラム・ツリーを作成し、一部の学位プログラムでは、学位授与方針の見直しを行っている。

以上のことから、教育課程及びその内容、方法の適切性の定期的な点検・評価、それに基づく改善・向上に向けた取り組みを概ね行っている。今後は、項目①②で既述した大学院活性化に向けた取り組みや項目⑥で既述した学生の学習成果の把握・評価に関する取り組みについて、全学的に取り組むこととしているため、その実現が期待される。

⑧ 教育課程連携協議会を設置し、適切に機能させているか。（学士課程（専門職大学及び専門職学科）／大学院の専門職学位課程）

該当なし。

＜提言＞

改善課題

- 1) 研究科における学位授与方針に明示した学習成果の把握・評価について、理工学研究科化学専攻を除き、各研究科とも独自の評価システムをこれから検討する段階であり、学習成果の測定にあたり多角的かつ適切な方法を設定しているとはいえない。各学位プログラムの特性に応じた学習成果を適切に把握・評価するために、その方法や指標の導入と運用を行うよう、改善が求められる。

5 学生の受け入れ

＜概評＞

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

「3つの方針策定のための全学的な基本事項」において、定義と策定にあたっての留意事項を明示している。学部については「学力の3要素」を踏まえて、入学前に身につけておくべき能力等と「学習歴、学力水準、能力、態度等をどのように評価するかを示していること」としており、学位プログラムごとに策定している。例えば、人文学部国際コミュニケーション学科においては、「基礎的な教養を持っている人」「英語又は中国語の学修に強い意欲を持っている人」「社会で使えるコミュニケーション能力を持っている人」等、それぞれの課程において必要とされる内容を踏まえて策定している。

研究科については、学士課程の学位授与方針である「課題発見・解決」「思考・判断」「関心・意欲・態度」「知識・理解・表現」「技術・技能」に関する評価の方法・基準を学位プログラムごとに策定している。例えば、心理学研究科心理学専攻博士前期課程では、「心理学の諸領域に関する幅広い基礎知識を有し、適切なデータ収集及び解析方法を理解できる人」「人間の基本的な行動メカニズムや現代社会が抱える諸問題に関心を持ち、心理学の専門的立場から、それらの問題解決に向けた研究を行える人」「実証的・科学的な心理学研究を遂行するために必要な一連の研究技法を身に付け、得られた知見を学術論文としてまとめ、的確に発信できる人」等を定めている。

これらの学生の受け入れ方針は、ホームページにおいて公表している。

以上のことから、学生の受け入れ方針は、学位プログラムごとに適切に策定及び公表している。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

学部の入学試験として、総合型選抜、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、学校推薦型選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜などの多様な選抜方法

明星大学

を導入している。研究科においては、一般入学試験、社会人入学試験を行っており、学生の受け入れ方針に基づいた入学者選抜制度を整えている。

2025年度入試からは「明星大学入学者選考規程」の改正、「明星大学全学入試運営委員会細則」「明星大学全学入試実施本部細則」の制定を経て、責任体制を明確にした入学者選抜の実施体制を整えて実施する予定である。また、大学院入試は、「明星大学大学院入学者選考規程」に則り、各研究科の責任において実施している。

問題作成における注意事項の徹底、試験当日の実施体制における注意喚起、可否判定における匿名性の担保など、公正な入学者選抜を実施するための体制を整えている。

授業その他の費用や経済的支援については、学部については、ホームページ及びパンフレットに情報を掲載し、研究科については、ホームページに掲載している。

以上のことから、学生の受け入れ方針に基づき、学部・研究科の入学者選抜の制度・体制について、適切に運営している。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

定員管理に関し、学部・学科ともに過去5年間の入学定員に対する入学者数比率及び収容定員に対する在籍者数比率については、概ね適正に管理しているが、人文学部福祉実践学科では、収容定員に対する在籍者数比率が低いいため、改善が求められる。

また、一部の研究科では、収容定員に対する在籍学生数比率が低いため、改善が求められる。大学院における継続的な定員未充足の課題に対しては、2022年度の「大学院の将来像検討会」に始まり、「大学院の人材養成機能の重点化・博士後期課程募集停止」の議論、各研究科による「博士後期課程活性化案」の作成などの対策を重ねており、学長から「大学院改革案の実行にかかる今後の対応について」が発出されたうえで、大学院改革のためのモニタリングシートをもとにした改革を実行している。今後、上記の「大学院改革案の実行にかかる今後の対応について」のもとで、学部教育・大学院教育を一体化した教育改革を目指しているため、これらの取り組みの成果に期待したい。

以上のことから、概ね適正に定員を管理している。ただし、一部の学部・学科や大学院においては、定員未充足がみられるため、改善が求められる。なお、大学院の入学者確保に向けて、諸施策を実行しているため、その成果に期待したい。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、そ

の結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

学生の受け入れの適切性に関する点検・評価は、本協会が定める大学基準に基づき、学部等の各部局が毎年行い、その結果に基づき、「自己点検・評価委員会」が全学的な観点から、点検・評価を行っている。この結果は「内部質保証推進委員会」に報告し、同委員会が、全学的な観点から検証し、改善方法の検討を行い、学長に提案している。また、「アドミッションセンター」や「教務ユニット教学企画・学修分析チーム」が入学者選抜と大学における学習成果との関連について分析し、入学者選抜における初年次教育の受講に必要な資質・能力の担保について点検をしている。

項目①で既述した、入学者に求める水準等の評価の方法・基準を「入学者選考規程」に反映し、それに沿って学生の受け入れ方針を改訂したことは、点検・評価に基づく改善・向上の取り組みといえる。また、部局単位では、経済学部経済学科において行ったFDの結果を受け、総合型選抜の小論文試験において、数値や抽象的な考えに関するリテラシーを問う作問を行うように変更している。さらに、自己点検・評価に基づくものとは異なるが、2022年度の定員未充足を受けて、「入試分析報告会」を開催し、「高大接続ダイレクトアクセス」を通じて高等学校への情報発信を積極的に行っている。

以上のことから、学生の受け入れについて、内部質保証の一環としての定期的な点検・評価を行い、そのなかで学生の受け入れに関わる課題に対して改善・向上のための取り組みを行っているものの、収容定員の適正な管理については更なる改善・向上が求められる。

<提言>

改善課題

- 1) 収容定員に対する在籍学生数比率が人文学部福祉実践学科で0.88と低いため、学部における定員管理を徹底するよう改善が求められる。
- 2) 収容定員に対する在籍学生数比率が理工学研究科博士前期課程で0.44、同研究科博士後期課程で0.01、教育学研究科博士前期課程で0.05、同研究科博士後期課程で0.00、人文学研究科博士前期課程で0.13、情報学研究科博士後期課程で0.22と低いため、研究科における定員管理を徹底するよう改善が求められる。

6 教員・教員組織

<概評>

- ① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

ビジョン及び教育目標に基づき、「大学として求める教員像や各学部・研究科

等の教員組織の編制に関する方針」を策定し、そのなかで「明星大学が求める教員像」「明星大学の教員組織の編制方針」を明示している。これらの方針は、ホームページ及び教職員向けポータルサイトを通じて公表・周知を行っている。

「明星大学が求める教員像」は、「建学の精神やビジョン及び教育目標を理解し、3つの方針に基づく教育の実現に貢献できる」こと、「教育研究活動に従事するに相応しい能力・資質を有して」いること、「自己点検・評価を行い、その結果をもとにそれらの改善・向上に努めることができる」こと等の5項目を定めている。

「明星大学の教員組織の編制方針」は、「大学設置基準、大学院設置基準、教職課程認定基準等の関係法令に基づき、適切に教員を配置する」「3つの方針を達成するために必要な教員組織を編制する」「年齢・性別・職位等について、バランスのとれた教員組織を編制する」等の5項目を定めている。

以上のことから、大学として求める教員像及び教員組織の編制方針を策定し、適切に公表・共有している。

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

学部・研究科ともに、大学及び大学院設置基準に定める教員数の基準を満たしている。また、データサイエンス学環においても、兼担者を活用することで基準数を満たしている。

教育上主要と認められる授業科目について、概ね専任教員を配置しており、適正に配置している。専門教育科目（学部等共通・学科科目）の必修科目の専任教員担当比率で見ると、心理学部心理学科、デザイン学部デザイン学科ではやや低い傾向が見られるため、留意されたい。

教員の年齢構成は、人文学部を除くすべての学部で高年齢層の比率が高く、偏りが見られる。研究科についても、学部と教員が重複しているため、同様の傾向にある。また、教員の男女比についても、大学として「複数の学部・学科において女性教員比率の低さを認識している」としている。「明星大学の教員組織の編制方針」において、「年齢・性別・職位等について、バランスの取れた教員組織」としているため、その実現に向けた取り組みが期待される。

教員と職員の協働・連携については、2021年度の自己点検・評価に基づき、教員と職員がともに参加する「全学SD・FD委員会」を2023年度に発足している。

以上のことから、教員組織の編制について、「明星大学の教員組織の編制方針」に基づき、適切に編制している。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

教員の採用、昇任に関しては、「学校法人明星学苑教員等の選任等に関する規程」を策定している。そのなかで「学部等又は研究科に所属する大学教員の任用及び昇格は選考による」とし、「明星大学教員人事選考委員会細則」で「学部等教員人事選考委員会」の構成員について規定している。また、「学校法人明星学苑教員等の選任等に関する規程」において「大学教員の選考の基準は、別に定める」とし、「学校法人明星学苑大学教員選考の基準に関する規程」において各職位の基準を示している。くわえて、同規程では「この規程の解釈及び運用に必要な教員の業績評価基準は、各学部等及び各学科で定める」としており、各学部等の実情に合わせた内規を制定することとしている。研究科の教員の資格については、「明星大学大学院教員資格審査細則」において、その基準を明示している。さらに、常勤教員、特任教員についても「学校法人明星学苑常勤教員に関する規程」「学校法人明星学苑特任教員に関する規程」に規定している。

教員の募集に関しては、「学校法人明星学苑法人教職員任用規程」において「教職員の採用は、理事長の下に設ける『人事計画委員会』の議に従って、計画的に行う」としており、年に2回、「人事計画委員会」を開催し、採用方針、採用人数等を決定した後、募集採用活動を行っている。

以上のことから、教員の募集、採用、昇任について、各種規程を整備し、それらに基づき、適切に運用している。

④ **ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。**

FDについては、「明星大学SD・FDに関する規程」に基づき、実施している。大学全体として、FD活動は概ね年に2回の頻度で、主に研修会を実施している。部局別FD活動は、毎年、部局別FD活動計画書に基づき実施し、部局別FD活動報告書を提出している。2023年度の部局別FD活動は、概ね高い出席率となっている。

授業改善以外の研究活動の活性化や社会貢献等の諸活動の推進を図ることを目的とした教員の資質向上に係る取り組みについては、全学FDのなかで、内部質保証やアセスメントテストの活用などをテーマとし、実施している。また、2024年度の全学SD・FDとして、研究活動の活性化を図る取り組みや社会貢献等の教員に求められる諸活動についてその資質向上を図る取り組みや適切な根拠に基づく点検・評価に向けた取り組みなどのテーマで企画を進めていることから、その実現に向けて取り組まれない。

TA、SAに対する研修については、各学部・研究科単位、又は科目担当者による口頭・書面での業務の説明を行っている。TA、SAへの研修内容について、個別での対応としていることから、大学としてこれらの状況を適切に把握するよ

うに努められたい。

以上のことから、教育能力の資質向上に向けて、大学レベル、部局レベルで定期的にFD活動を実施しているといえる。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

教員組織の適切性の点検・評価については、毎年度、学部等の各部局が、本協会が定める大学基準に沿って行い、その結果に基づき「自己点検・評価委員会」が全学的な観点から点検・評価を行っている。その結果は「内部質保証推進委員会」に報告し、全学的な観点から検証、改善方法の検討を行い、これを学長に提案している。「2023年度明星大学自己点検・評価の基本方針」には、自己点検・評価の対象に「教員・教員組織」を含めており、各学部・研究科等が提出する「自己点検・評価シート」に記載項目を設定している。教育改善のためのFD活動は持続的・定期的に行っており「学生による授業改善のためのアンケート」や「授業改善実施記録」を導入している。

また、項目④でも既述したとおり、自己点検・評価によって課題として抽出した、授業改善以外の研究活動の活性化や社会貢献等の諸活動の推進を図ることを目的とした教員の資質向上に関するFD活動に取り組み始めている。

以上のことから、全般的な内部質保証の一環として自己点検・評価を実施しており、その結果に基づいて改善・向上に向けた取り組みを行っている。

7 学生支援

<概評>

① 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。

学生支援に関する大学としての方針として「学生支援に関する明星大学の方針」を定めている。修学支援に関しては「誰もが広く深く学修できるよう支援する」、生活支援に関しては「誰もが有意義な学生生活を送ることができるよう支援する」、進路支援に関しては「誰もがキャリア・進路を考えることができよう支援する」と支援の分野ごとに方針を掲げ、具体的な支援方針を明示している。修学支援については、「本学の多様な学問分野が交差する仕組みを充実させ、学生が様々なテーマに興味をもち、学問分野間で協働しながら学修できるよう支援する」として、クロッシング科目を提供するなど、特色ある教育課程の効果を学生が享受できるように支援する方針を打ち出している。生活支援については、「学友会活動やボランティア活動等の課外活動を通じて、学生一人ひとりが自律性と協調性を育むことができるよう支援する」として地域に根差し地域に開かれた大学の

理念に共鳴する支援の方針を打ち出している。進路支援については、「キャリア教育と就職支援の連携を図る」こととして、体系的な支援の姿勢を明らかにしている。障がいのある学生支援についても、「ユニバーサルデザインセンター」が方針を明示している。

これらの方針については、教職員向けポータルサイトで学内に周知している。学外に向けてはより細分化された支援の分野ごとに担当部署のページを用意しており、それぞれの方針をホームページに掲示している。

以上のことから、学生支援に関する大学としての方針を適切に定めているといえる。

② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

修学支援は「教務ユニット」、海外留学や語学研修に関する支援は「国際教育センター」、入学前教育に関する支援は「明星教育センター」、経済的支援は「学生支援ユニット」、障がいのある学生支援は「ユニバーサルデザインセンター」など、支援の体制を整備している。また、学生の自主的な学習を促進するための支援として図書館の一部をリニューアルした「MEISEI HUB（多彩な学びの空間）」を開設した。同施設は、ランゲージ・ラウンジ、フリースペース、イベントスペース及び学びとキャリアエリアで構成している。

修学支援として、成績不振の学生への対応については、GPAを用いて全学的な統一基準を定め、該当学生に対して教員が個別面談を行っている。補習教育・補充教育については、従前の全学的な対応から、学部・学科での対応に変更した。障がいのある学生に対する支援については、「ユニバーサルデザインセンター」が個別に対話を行い、「障がい学生支援検討委員会」の専門委員の検討を経て、最終的には学長が支援内容を決定している。同センターは、2015年に設置され、コーディネーターが関係部署と連携しながら学生の対応にあたっている。

生活支援として、精神面での健康については、「学生相談室」に常駐する臨床心理士・公認心理師がカウンセリングを行うほか、診療所において精神科医が診療にあたっている。ハラスメントについては、各学部の教員、学生相談室スタッフ及び事務職員複数名からなるハラスメント相談員が対応している。学生相談室への来室者は増加傾向にあるが、臨床心理士・公認心理師が対応している。また、場合によっては学生相談室と診療所の精神科の医師が連携して対応している。

進路支援については、全学共通キャリア形成科目の企画立案及び実施は「明星教育センター」が担い、キャリア支援については事務組織である「アドミッション・就職ユニット就職チーム」（就職センター）が担っている。全学的なキャリア教育とキャリア支援の連携のため、「全学キャリア教育検討委員会」を設置し

たが、現時点では成果を上げるまでには至っていない。また、就職支援は各学部等と「就職センター」が連携して行っている。

正課外活動への支援として、「全学学生生活委員会」を設置して支援内容を協議している。支援体制としては、「学生サポートセンター」に学友会担当を置いている。

以上のことから、学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備しており、学生支援を適切に行っている。

③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

学生支援の適切性については、それぞれの学生の支援内容に応じて、各学部等、附属教育研究機関及び学生支援に関する事務組織が、本協会が定める大学基準に基づき毎年度、自己点検・評価を行っている。その結果に基づき、「自己点検・評価委員会」は、全学的な観点から点検・評価を行い、「内部質保証推進委員会」に報告している。同委員会は、全学的な観点からの検証、改善方法の検討を行い、これを学長に提案している。また、「内部質保証推進委員会」が自己点検・評価結果に基づく検証及び改善方法の検討を全学的な観点から行うために、同委員会内に「学生生活部会」を置いている。同部会は「全学学生生活委員会」の構成員をもって組織することとしており、恒常的に議論している会議体による確認機能を設けている。

点検・評価の結果に基づく改善・向上については、2022年度の点検・評価において、「修学支援、生活支援、進路支援に関連する組織や委員会等の役割分担を明確化すること」が課題・問題点として指摘され、役割の整理を行い、「全学学生生活委員会」において、奨学金の選考を担うことを規定した。一方、「全学キャリア教育検討委員会」については、役割等が明文化されていないため、これに向けた検討が望まれる。

以上のことから、学生支援の適切性について、定期的に点検・評価を行っており、その結果をもとに改善・向上に向けて取り組んでいるといえる。

8 教育研究等環境

<概評>

① 学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を明示しているか。

教育研究等環境の整備に関する方針として「教育研究等環境の整備に関する明星大学の方針」を策定し、「施設・設備」に関して、中長期的な計画に基づきキャンパス整備・改修・修繕を行うとともに、交流の場の整備、安全性・利便性・

自然環境に配慮したキャンパスづくりに努めること、「図書館・学術情報サービス」に関して、図書・学術雑誌・学術情報資料の体系的な整備と、図書館の利用環境・交流空間としての学習環境を整備し、研究活動の成果・学術的資料を発信・提供すること、「情報通信環境」に関して、ネットワーク環境・ソフトウェア等を計画的に整備し、情報セキュリティの確保に努めること、「研究環境」に関して、研究室・研究費・研究時間を確保し、競争的資金の応募・採択の支援、研究倫理を確立する活動を行うことを明示している。

これらの方針は、ホームページを通じて広く社会に公表するとともに、教職員向けポータルサイトを通じて学内に周知している。

以上のことから、教育研究活動に関する環境・条件の整備方針を設定し、学内外へそれらの整備方針を明示しているといえる。

② 教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地及び校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設及び設備を整備しているか。

「教育研究等環境の整備に関する明星大学の方針」「明星学苑における施設の改修および修繕計画方針」に基づき、建物を新設して講義室・実験室・演習室・研究室等を整備し、学部・学環・研究科をワンキャンパスに集約するとともに、交流の場として憩いの場・談話室・オープンスペースのほか、多くのスポーツ環境設備を整えている。

2004年度以降に竣工した新しい施設のバリアフリー化に加え、それ以前の施設については、入口の全てにスロープ等の段差改善措置を講じているほか、配慮を要する学生からの環境改善要望に対応して、体育館アリーナ横通路へのスロープ設置、視覚障がい者用誘導舗装や点字表示の増設を行っている。また、キャンパス内に食堂、カフェ、コンビニエンスストア、ブックセンターを設けることで、学生・教職員が快適に教育研究活動を行うことができる整備を行っている。さらに、図書館に「第4の学修の場」「多彩な学びを提供する空間づくり」を目的とし、新しいラーニングコモンズエリアとして「MEISEI HUB（多彩な学びの空間）」を新設している。

施設、設備等の安全及び衛生管理として、電気・給排水・空調設備等の主要設備を中央監視装置により遠隔監視を行っているほか、防災センターに全棟の消防設備からの発報状況や防犯カメラからの情報を集約し、24時間体制で監視している。

ネットワーク環境やICT機器の整備として、最新のWi-Fiに対応した機器への増設・更新、2021年度よりBYOD（Bring Your Own Device）の推進、リモート利用を中心とするシステムへの切り換えなどに取り組み、利用促進を図っている。

情報倫理を確立するために、教職員には e-Learning によるコンプライアンス研修を実施し、学生には全学共通科目「情報の活用と倫理」において倫理教育を実施している。

以上のことから、教育研究等環境に関する方針に基づき、教育研究活動に必要な施設及び設備を整備していると判断できる。

③ 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それらは適切に機能しているか。

図書館は、滞在型学習施設と、収蔵施設としての機能に分けて構成している。滞在型学習施設に設ける「MEISEI HUB（多彩な学びの空間）」は、ランゲージ・ラウンジ、フリースペース、イベントエリア、学びとキャリアエリア、図書館のエントランスで構成しており、異文化に親しむ空間、憩いの空間を提供するほか、イベント・学習活動を通じて自身の学びを深める機能を有している。なお、2022年度の点検・評価の結果、これらの施設を集約することで学生の利便性向上とともに教育研究活動の支援を図っており、今後もその機能を検証し、更なる発展を期待したい。

図書館所蔵の資料は、蔵書検索システムを利用して検索・貸出を可能としており、国立情報学研究所が提供する目録システム及び相互協力に参加し、他大学等の所蔵書籍等の貸出や文献複写の提供も行っている。

図書館には、司書資格、学芸員資格を有している職員を配置している。また、「教育研究等環境の整備に関する方針」（図書館・学術情報サービス）に基づく専門的な人材育成を目的として、職員に学外研修の受講機会を設け、さらに、図書館部署内で独自の勉強会を定期的を実施することで、図書館業務に求められる専門知識の涵養に取り組んでいる。なお、「MEISEI HUB（多彩な学びの空間）」を含む図書館全体の運営に学生が関わる体制作りを進め、集合研修、初心者向け業務研修、OJT、リーダー等の役職設置や勤務シフトの作成・運用に学生自ら取り組んでいる。また、教職員が協働した施設運営や工夫を凝らしたイベント開催などの積極的な支援を行っており、今後も更なる利用促進に向けた取り組みが期待される。このような体制や、「BOOK PICK（ブックピック）」などの取り組みにより、図書館サービスの改善効果や学生の学習意欲の増進などを図っている。

以上のことから、図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えている。

④ 教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

研究に関する大学の基本的な考えは、「教育研究等環境の整備に関する明星大

学の方針」の「研究環境」において、研究室・研究費・研究時間を確保し、競争的資金の応募・採択の支援、研究倫理を確立する活動を行うことと明示している。

教員に支給する研究費として、専任教員・任期付き常勤教員・特別教員・特任教員を対象として一律に助成する「教員研究助成費」、科学研究費補助金の採択者に対して配分額に応じた「科研費採択インセンティブ研究費」、若手教員が行う萌芽的な研究を支援することを目的とした「若手研究費」、学術的重要性・妥当性の高い、若しくは、社会に対して波及効果の高いイノベーションの契機となるような研究を支援する「重点支援研究費」、特別研究期間制度における「特別研究費」を設け、教育研究活動の促進を図っている。

一部の客員教員及び兼任教員を除く教員に研究室を貸与しており、実験系の教員・学生が活動するために必要な研究室環境を整備している。また、「適正なカリキュラム運営のためのガイドライン」に専任教員の責任コマ数を設定し、各専任教員の担当コマ数を調整することで研究時間を確保しているものの、実際の担当コマ数には大きなばらつきがあるため、今後も研究時間の確保について状況を検証し、授業担当時間とのバランスに配慮することが望まれる。

教育研究活動を支援する体制として、リサーチ・アドミニストレーター（以下「URA」という。）による学内研究者のマッチングコーディネートや、申請に必要な計画書の添削支援・公募情報の提供・外部資金獲得のためのセミナー開催など、外部資金の獲得支援を行っているほか、「連携研究センター」による共同利用施設（研究室）の有期貸与制度の整備、「学校法人明星学苑ティーチング・アシスタント及びスチューデント・アシスタントに関する規程」に基づき、学生を教育指導補助者（TA、SA）として雇用する制度を導入することで、教員の教育活動を支援している。

以上のことから、教育研究活動を支援する環境や条件の整備と、教育研究活動の促進を適切に図っていると判断できる。

⑤ 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

研究活動及び研究費の適正な管理・運営に関わる規程として、「明星大学研究活動における不正行為等及び研究費の不正使用等の防止・対策に関する規程」に基づき、「明星大学における研究活動及び研究費の適正な管理・運営を行うための基本方針」「明星大学 研究活動における行動規範」を定めており、ホームページを通じて、学内外に公表している。また、「研究活動における不正防止等及び研究費の不正使用等の防止・対策に関する基本方針に基づく防止計画」を毎年度策定し、年末に各学部等においてモニタリングを実施している。

研究倫理に関わる規程として「明星大学研究倫理規程」を整備し、教員・大学院学生に研究倫理教育の受講を義務付けるとともに、全ての学部学生、大学院学

生に対して研究倫理教育を行う体制を整備している。

研究倫理を遵守した研究活動を推進するために、「明星大学研究倫理審査に関する内規」に基づき、学内で研究倫理審査を行う体制を構築しているほか、「明星大学産学公連携活動に伴う利益相反マネジメントに関する規程」「明星大学安全保障輸出管理規程」を整備し、研究倫理を遵守するための必要な措置を講じている。

以上のことから、研究倫理を遵守するための規程を設け、必要な措置が講じられていると判断できる。

⑥ **教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

教育研究等環境の適切性の点検・評価は、図書館・附属教育研究機関・教育研究等環境に関係する事務組織が、毎年度行っている。その結果を「自己点検・評価委員会」が全学的な視点から点検・評価した後、「内部質保証推進委員会」が検証・改善方法の検討を行い、学長に提案している。

2022年度の図書館の自己点検・評価を受けて、「内部質保証推進委員会」が検証した結果として、「図書館や附属教育研究機関における運営委員会に関して、教育研究等環境の整備に関わる役割分担や組織間連携の在り方の明確化」を課題・問題点として指摘された結果が、「MEISEI HUB（多彩な学びの空間）」の新設と、それを中心とした図書館や附属教育研究機関における運営委員会の在り方の再定義につながっていることから、教育研究等環境の適切性が実質的に点検・評価され、全学レベルのPDCAサイクルに則った改善・向上を行っている。ただし、図書館の「自己点検・評価シート」と「内部質保証推進委員会」における「自己点検・評価【課題・問題点リスト】」との直接的なつながりが示されておらず、部局別PDCAサイクルと全学的PDCAサイクルとの連関が必ずしも明確になっていないため、自己点検・評価結果を踏まえた積極的な改善支援が望まれる。

以上のことから、教育研究等環境の適切性を定期的に点検・評価しており、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っている。

9 **社会連携・社会貢献**

＜概評＞

① **大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。**

大学のビジョン及び教育目標に基づいて、2023年に「社会連携・社会貢献に関する明星大学の方針」を策定している。具体的には、「教育研究の成果を広く社

会に提供することにより、社会の発展に寄与する」「知的資源をもって積極的に産学公連携活動を推進し、地域の活性化および地域の課題解決を通して社会に貢献する」等の3項目を定めている。

上記の方針は、ホームページを通じて社会に公表し、教職員向けポータルサイトを通じて学内に周知している。また、産学公連携活動に係る連絡調整や学外機関からの業務請負等を行う「連携研究センター」では、「明星大学の連携研究ポリシー」を策定してホームページを通じて社会に公表している。

以上のことから、社会連携・社会貢献に関する方針を定め、公表している。

② **社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。**

社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、大学は多様な取り組みを実施している。学外組織との連携として、大学周辺の5つの自治体と連携協定を交わし、地域の抱える問題解決に向けた協働、生涯学習の推進、人的及び知的資源の提供を行っている。例えば、デザイン学部では近隣市町村などが実施するレジ袋の削減を目的として、「レジごみ袋」というマイバッグの導入・販売の実証実験に参加し、学生がデザインした袋を製造・販売している。産業界との連携は、「連携研究センター」が窓口となって推進している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施できなくなっていた「産学交流会」を再開し、多摩地域の企業及び自治体等の関係者を招いてラボツアーや大学の教職員との情報交換を行っている。

地域交流事業として、学内の自然環境・資源・歴史に着目し、多摩地域でも有数の学内「里山」環境を知り、その活用と地域連携を考える「明星 SATOYAMA プロジェクト 2022→2025」を進めている。同プロジェクトは学部横断で実施し、幅広い学部の教員や学生が、それぞれの視点や専門性を持ち寄り、掛け合わせながら考えることによって、基本理念である「多摩の里山を楽しむキャンパス」のもと、それぞれの専門領域を生かして取り組み、大学のビジョンの体現に試みるとともに、学生の成長及び大学の社会貢献の両方に寄与する取り組みとして、高く評価できる。

また、2022年度より企業と体系的に学ぶ体験教育プログラム「高校生アントレプレナーズキャンプ TAMA」を開催し、多摩地域で学ぶ高等学校生を対象に経営学部教員が講師となって、起業活動の体験学習の機会を提供している。3日間で、起業に関連する基礎的知識・スキル、プレゼンテーションを体験的に学ぶプログラムを展開している。ボランティアセンターでは、多摩地域を中心に各地からのボランティア情報を登録・管理し、福祉・教育・環境保護・災害復興支援等の活動を取り扱っている。外部団体からの希望が登録され、LMS等を通じて発信された情報を通じて学生が参加している。学生主導の「きらぼ学生サポーター」が

ボランティアのスキルアップを企図した交流会や講座なども開催している。活動は個人だけでなく、ボランティア団体や教職希望者等の学校など、幅広い場でさまざまな活動を行っている。

国際交流事業として、「国際教育センター」では留学生対象の交流イベントについて、LMSを通じて留学生に発信している。八王子市内の小学校でイベントを開催しているほか、「地酒列車モニターツアー」等を行っている。

以上のことから、社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、大学は学外組織との連携体制を構築し、地域交流・国際交流事業への参加の取り組みを実施し、教育研究成果を適切に社会に還元している。なかでも、「明星 SATOYAMA プロジェクト 2022→2025」は、学内の里山環境を活用し、幅広い学部の教員や学生が参画するプロジェクトとして、学生の成長と大学の社会貢献を両立する取り組みとして、高く評価できる。

③ **社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

社会連携・社会貢献の適切性の点検・評価は、「自己点検・評価委員会」のもとで「地域交流センター」「ボランティアセンター」「連携研究センター」が毎年度行っている。この結果を踏まえて、「自己点検・評価委員会」が全学的な視点から点検・評価を行い、「内部質保証推進委員会」に報告している。「内部質保証推進委員会」は、全学的な観点から検証・改善方法を検討して学長に提案している。

点検・評価の結果に基づく改善・向上に向けた取り組みについては、2022年度の自己点検・評価において、社会連携・社会貢献に係る取り組みを可視化できていないという指摘があった。しかし、毎年発刊する「明星大学地域活動報告書」「地域交流センターNewsletter」「地域交流マップ」など、学内各所で可視化しており、その内容も充実していることから、継続してこれらを推進し学内外への情報発信に努めるとしている。また、点検・評価の結果に基づく改善・向上の試みが個人的・局所的なケースがあるという課題に対しては、社会貢献等に関わる教員に求められる諸活動に係るFD活動の実施により改善が期待されることから、2024年に機関決定した「明星大学SD・FDに関する基本方針」に基づき、組織的なFD活動を実施していくこととしている。

以上のことから、社会連携・社会貢献の取り組みを毎年度点検・評価し、その結果をもとに、改善・向上に向けた取り組みを行っている。

<提言>

長所

- 1) キャンパス内の自然環境を活用し、地域の文化や歴史、暮らしや仕事を含めた次時代にふさわしい人と自然のあり方を試行・模索する「明星 SATOYAMA プロジェクト 2022→2025」を始動させ、各学部を横断したクロッシング・プロジェクトとして、学生や教職員、地域住民、自治体、近隣の大学等が参加し、生態調査に基づくビオトープづくりやSDGsを体験するイベント、間伐材を活用した商品開発等の多様な活動を展開している。学生の学びの場にとどまることなく、参加者を公募して緑地を活用した自然保全や多摩地域の活性化等の地域課題の解決に取り組むなど、学生の成長と大学の知を還元した地域貢献の両面で機能していることは評価できる。

10 大学運営・財務

(1) 大学運営

<概評>

- ① 大学の理念・目的、大学の将来を見据えた中・長期の計画等を実現するために必要な大学運営に関する大学としての方針を明示しているか。

大学運営に関する方針については、「大学の運営に関する明星大学の方針」を策定している。同方針においては、「役職者の権限および責任を明確にすること」、「中期財務計画を策定し、これに基づく予算編成・執行を行う」こと、「教員および事務職員のスタッフ・ディベロップメント（SD）を組織的に実施すること」などを掲げている。

これらの方針はホームページ及び教職員向けポータルサイトに掲載し、公表及び共有を行っている。

以上のことから、適切に大学運営に関する方針を策定し、公表・共有しているといえる。

- ② 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

学長の選任については、雇用期間に定めがない専任の教授・准教授・講師及び雇用期間に定めがある助教、学苑・大学企画局又は学苑・大学事務局に所属する雇用期間に定めがない主任以上の専任事務職員を選挙人として、予備選挙で候補適任者を選定した後、本選挙で有効投票総数の過半数を得た者を学長候補者とする旨の規程を整備している。副学長については、学長が「大学評議会」の意見を聴いて推薦し、理事会の議を経て、理事長が選任することになっており、学長から委任された権限の範囲内で業務を執行することを規定している。学長補佐については、学長が学部長会の意見を聴いて推薦し、理事長が選任することになって

おり、学長の権限委任を受けないことを規定している。さらに、学部長及び研究科長については、当該学部・研究科の教授、准教授、講師及び助教を選挙人として投票し、投票の過半数を得た者を候補者として理事長が選任する旨、規定している。

また、審議機関として教育研究に関する全学的重要事項を対象とする「大学評議会」を置いている。「大学評議会」は、学長、副学長、学部長、学環長、大学院研究科長、通信教育課程長、全学共通教育委員会委員長、図書館長、各学部所属の教授及び全学共通教育委員会構成員の教授で構成している。教授会は、当該学部にも所属する専任の教授、准教授、講師、助教で構成し、学生の入学及び卒業に関する事項、教育課程に関する事項、教員の人事に関する事項などを審議事項としている。このほか、大学全体の運営に関する連絡調整のための学部長会や学長の諮問機関である各種委員会を置いている。学長の諮問委員会については、役割や権限を明示しておらず、一部内容が重なり合いながら複数の場で検討を進めているケースが報告されているため、今後、役割・権限の整理を行うよう検討が望まれる。

学長、副学長、学長補佐、学部長、学環長及び大学院研究科長等の役職者の権限・役割については「学校法人明星学苑組織管理規程」において明示している。また、「大学評議会」及び教授会の権限・役割については学則及び関連規程に明示している。

以上のことから、規程に従った役割・権限の範囲内で業務を執行する体制を整えている。ただし、学長の諮問委員会については役割・権限を明確にして審議事項に重複が生じないように検討することが望まれる。

③ 予算編成及び予算執行を適切に行っているか。

予算編成については、理事長が定める予算編成方針に基づき、各予算単位を所掌する業務執行責任者である企画局長（学苑・大学企画局）、事務局長（学苑・大学事務局）、学長（明星大学）、校長（小・中・高等学校）、園長（幼稚園）が予算案を策定している。予算案は予算責任者である学苑・大学事務局長が調整し、さらに予算統括責任者である常任理事の調整を経て理事長が決定している。

予算執行については、中間決算を行い、必要な事業計画の修正を機動的に行っている。年度末には、管理会計ベースに組み替えたうえ、学部単位での収支状況を分析している。

以上のことから、関係者の権限と役割を明示し、予算執行についても中間期で見直すことができる仕組みになっており、適切に運営している。

④ 法人及び大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要

な事務組織を設けているか。また、その事務組織は適切に機能しているか。

「学校法人明星学苑組織管理規程」に基づき、経営面に重点を置いた学苑・大学企画局と教学面に重点を置いた学苑・大学事務局の下にユニット・チーム（旧部・課）を配置しており、大学の業務に必要な事務組織を適切に整備している。なお、2020年度にユニット・チーム制へ移行し、ユニットリーダーには、チームリーダー以上の管理職を除き、事務職員のユニット内異動の権限を与え、効率的な事務組織編制となっている。職員数については、全職員の半数が専任事務職員であり、継続的勤務や計画的な配置・育成により専門性や知識の蓄積が可能な体制になっている。また、URAやカウンセラー等、一部の高度専門人材については、無期契約を含む専門的契約職員を確保している。

教職協働については、主要な会議体の構成員を教員と事務職員とすることで担保している。具体的には、大学全体の運営に関する事項を連絡・調整する学部長会や学長の所掌会議として毎週開催している大学業務ミーティングには、ユニットリーダーやチームリーダーが参画している。

教職員の任用については、「人事計画委員会」が採用計画を策定している。職階については、マネジメント層、シニアスタッフ層、スタッフ層に大きく区分したうえ、各層内を数ランクに分けてランクごとの賃金を定めており、ランクアップに応じて賃金が上昇する仕組みとなっている。

人事考課については、期首に個人目標を定める統一様式のノートを作成し、中間・期末に上長が面談し、進捗管理及び評価を行っている。評価は一次評価、二次評価を行い、マネジメント層については常任理事、局長、ユニットリーダークラスで編制する「評価委員会」が審査している。また、不服申立制度も整備している。

以上のことから、広範な業務を網羅するのに必要な事務組織を適切に整備し、必要な人材を確保するとともに、昇任や業務評価制度も整備している。

⑤ 大学運営を適切かつ効果的に行うために、事務職員及び教員の意欲及び資質の向上を図るための方策を講じているか。

職員の資質向上の取り組みについては、OJT（上司との進捗面談）、自己啓発（e-Learning）及び集合研修（階層別研修）の3本柱で進めている。このうち、自己啓発（e-Learning）については、キャリアポテンシャル診断で自己の特徴を把握した後、上司との面談を経て、開発するコンピテンシーと受講するe-Learningコースを決定するなど、きめ細かな対応を行っている。

SD及びFDについては、2022年度に「明星大学SD・FDに関する基本方針」を策定し、全学及び部局に「全学SD・FD委員会」を設置して研究会及び研修会の企画・実施を担う体制を整備している。

以上のことから、新たな体制でSDを推進しており、実際の研修も時宜を得たテーマで実施している。今後も、「全学SD・FD委員会」が主導して適切にテーマを設定し、研究会・研修会を展開していくことが望まれる。なお、SDへの参加者の割合としては、必ずしも十分な状況とはいえないため、研修会等の周知を強化するとともに参加を促す工夫を講じられたい。

⑥ 大学運営の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

自己点検・評価を基盤とする内部質保証の体制を構築し、毎年、「自己点検・評価委員会」のもと、部局の自己点検・評価に基づく全学的な自己点検・評価を行っている。ただし、「内部監査室」が作成した「明星大学自己点検・評価活動」に関する監査結果報告によれば、「部局別自己点検・評価シートの記載状況を確認したところ、学部・研究科は全般的に、『現状』は記載されているものの、『長所・特色』『課題・問題点』『将来に向けた発展方策』は、『空欄』『特になし』が散見される。内部質保証体制の再構築後、初回の自己点検・評価であることを考慮しても、部局別自己点検・評価が十二分にできているとはいえない。」と指摘されており、部局レベルでの自己点検・評価の取り組みは不十分であるといえる。また、2022年度の自己点検・評価で指摘された学長の諮問委員会の権限・役割を明確にする必要性については未だ十分な対応が行われていないため、項目②で既述のとおり、役割・権限の整理を行うよう検討が望まれる。なお、上記の監査結果報告での指摘を受け、「内部質保証推進委員会」は、部局別の自己点検・評価の取り組みを支援するため、2022年度より他の「部局別委員会」が作成した「自己点検・評価シート」を評価しあう「ピア・レビュー」を実施し、2024年度には2023年度に各部局が作成した「自己点検・評価シート」の検証を行っている。

監査については、法令に則り、監事監査、独立監査人による財務監査に加えて、「内部監査室」による監査を実施している。内部監査においては、例えば、2022年度においては、「公的研究費（科学研究費補助金等）」に関する監査、「自己点検・評価活動」に関する監査、「教員研究助成費」に関する監査、「学苑・大学事務局 教務ユニット（教育学部、全学共通教育）」による定期監査を行い、広範なテーマについて潜在的なリスクを指摘しており、機能しているとみられる。

部局別の自己点検・評価が十分にはできていないとの指摘が内部監査結果で示されており、この点に取り組む必要がある。また、学長の諮問委員会の権限・役割を明確にするとの課題については依然として対応が必要である。

以上のことから、大学運営の適切性を点検・評価するとともに、法令に基づく監査及び内部監査を実施し、課題を把握する体制を整備しているが、上記の部局

別の自己点検・評価に関する課題への対応については今後強化していく必要がある。

(2) 財務

<概評>

① 教育研究活動を安定して遂行するため、中・長期の財政計画を適切に策定しているか。

法人の中期計画として 2023 年度から 2027 年度までを期間とする「学校法人明星学苑第 4 期中期経営戦略」を策定し、持続的な成長のための基盤構築のひとつとして「財務基盤強化のための施策」を明示している。具体的には、現在の財務状況を分析したうえで、収入拡大として、学生の安定的確保を目指しつつ、学生の離籍対策を講じること、経常費補助金や恒常的な寄付金の獲得に組織的に取り組むことを示し、また、支出の適正化等として総人件費の抑制を目指すとともに、成長戦略への支出を行うことなどの方針を掲げている。

また、中期経営戦略を踏まえ「中期財務計画」を策定しており、学生生徒数や教職員数の見通しとともに、中期計画期間である 2027 年度までの事業活動収支のシミュレーションを作成している。

以上のように、中期経営戦略に基づき 5 年間の中期財務計画を策定していることから、中・長期の財政計画を策定しているといえる。

② 教育研究活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか。

財務関係比率については、「理工他複数学部を設置する私立大学」の平均と比べ、事業活動収支計算書関係比率では、法人全体、大学部門ともに、人件費比率が高く、事業活動収支差額比率が低い状況にあるものの、いずれの比率も経年的に改善傾向にあり、事業活動収支差額は大学部門で 2020 年度以降、法人全体で 2021 年度以降、収入超過に転じている。貸借対照表関係比率では、繰越収支差額構成比率が平均をやや下回るものの、純資産構成比率や流動比率など、その他の比率は良好な状態にあり、また「要積立額に対する金融資産の充足率」についても、一定水準で安定的に推移している。これらのことから、教育研究活動を安定して遂行するために必要な財務基盤を確立しているといえる。

外部資金について、URA を配置し、科学研究費補助金の申請に必要な研究計画調書の作成支援のほか、外部資金獲得のためのセミナーを開催し、共同・受託研究の獲得支援として企業ニーズと研究シーズのマッチングを行っている。科学研究費補助金等の獲得実績は一定水準を確保しているものの、これらの取り組みをより積極的に展開し、今後の成果につなげることを期待したい。

以上

明星大学提出資料一覧

点検・評価報告書
評定一覧表
大学基礎データ
基礎要件確認シート
大学を紹介するパンフレット

その他の根拠資料	資料の名称	
1 理念・目的	明星大学ウェブサイト {明星大学の情報公開 (1 学校法人明星学苑 寄附行為、役員等一覧/学校法人明星学苑 寄附行為) }	
	明星大学ウェブサイト {明星大学のビジョン・教育目標 (明星学苑 建学の精神・教育方針・校訓・ビジョン) }	
	明星大学ウェブサイト {明星大学の情報公開 (8 学則等/ア. 明星大学学則、イ. 明星大学大学院学則、オ. 明星大学通信教育部学則、カ. 明星大学通信制大学院学則) }	
	明星学苑創立 100 周年特設ウェブサイト {Next100 ビジョン}	
	明星大学ウェブサイト {明星大学の情報公開 (8 学則等/ウ. 明星大学教則、エ. 明星大学大学院教則、キ. 明星大学通信教育部教則、ク. 明星大学通信制大学院教則) }	
	明星学苑基本理念、ビジョン、教育目標 (明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」)	
	クレドカード	
	2023 年度_履修の手引	
	2023 年度_履修の手引-大学院便覧-	
	2023 年度_教育学部教育学科 (通信教育課程) 履修の手引	
	2023 年度_明星大学 通信制大学院 教育学研究科 教育学専攻 ハンドブック	
	明星大学ウェブサイト {資料請求・デジタルパンフレット (大学案内、学生募集要項 (デジタルパンフレット)) }	
	2024 年度_明星大学 大学院案内	
	2024 年度_大学案内・学生募集要項 (教育学部 教育学科 通信教育課程)	
	2024 年度_明星大学 通信制大学院 学生募集要項	
	明星学苑創立 100 周年特設ページウェブサイト {記念コンテンツ}	
	明星大学 第 2 期 中期事業計画	
	2022 年度_第 6 回 理事会議事録	
	2023 年度_教育研究活動 計画書兼報告書	
	学校法人明星学苑 第 4 期 中期経営戦略_理事会 20230317-1-1	
	学校法人明星学苑 第 4 期 中期財務計画_理事会 20230317-1-2	
	学校法人明星学苑 第 4 期 中期経営戦略 (リーフレット)_理事会 20230317-1-3	
	2023 年度_理事会の自己点検・評価_理事会 20230317-4	
	2022 年度_理事会の自己点検・評価_理事会 20230526-3	
	2 内部質保証	明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価 (関連資料/明星大学における内部質保証に関する規程) }
		明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価 (1. 内部質保証/明星大学内部質保証の方針) }
内部質保証の方針 (明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」)		
「第 3 期認証評価に備えた内部質保証システムの構築」に係る意見聴取について (依頼) _学部長 20200910-11-1		
内部質保証システムの構築にあたっての組織の在り方 (案) に関する意見について_学部長 20200910-11-2		
「第 3 期認証評価に備えた内部質保証システムの構築」について_学部長 20201112-5		
規程の制定等について (学部長会協議) (案) _学部長 20201210-01-1		
明星大学における内部質保証に関する規程 制定の趣旨 (案) _学部長 20201210-1-2		
明星大学自己点検・評価規程 改正の趣旨 (案) _学部長 20201210-1-3		
明星大学自己点検・評価委員会細則 廃止の趣旨 (案) _学部長 20201210-1-4		
明星大学内部質保証推進委員会の設置について_学部長 20210114-3		
明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価 (関連資料/明星大学自己点検・評価規程) }		

明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価 (1. 内部質保証/明星大学内部質保証システム体系図) }
恒常的諮問委員会委員一覧 (明星大学内部質保証推進委員会) _学部長 20230511-③-2-1
恒常的諮問委員会委員一覧 (全学カリキュラム検討委員会) _学部長 20230511-③-2-1
恒常的諮問委員会委員一覧 (全学学生生活委員会) _学部長 20230511-③-2-1
恒常的諮問委員会委員一覧 (全学入試運営委員会) _学部長 20230511-③-2-1
各規程に基づく委員会委員一覧 (自己点検・評価委員会) _学部長 20230511-③-2-3
部局別自己点検・評価委員会構成員一覧
明星大学内部質保証推進委員会が求める外部評価の実施要領
外部評価の評定の目安
2022年度_外部評価シート (記入様式)
明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価 (2. 各種方針/3つの方針を策定するための全学的な基本方針) }
2022年度_履修の手引 (8. 明星大学の教育上の目的)
「3つの方針策定のための全学的な基本方針」に関する意見聴取について (依頼) _学部長 20220310-4
「3つの方針策定のための全学的な基本方針 (案)」を2022年度第1回大学評議会に付議することについて_学部長 20220512-2
3つの方針策定のための全学的な基本方針について (案) _大評 20220519-2
3つの方針の改訂に伴う学内手続きについて (依頼) _学部長 20220714-2-1
学年進行途中で3つの方針を改訂する場合の注意事項 (補足資料) _学部長 20220714-2-2
各研究科・専攻に対する『3つの方針策定のための全学的な基本方針』の適用時期について (案) _明星大学内部質保証推進委員会
大学院活性化に向けた今後の対応について_学部長 20230713-③-13
2023年度後期「学生による授業改善のためのアンケート」実施について_学部長 20231109-③-3
2023年度後期「学生による授業改善のためのアンケート」手順書 (教員用)
学生による授業改善のためのアンケート (学生配布用)
2023年度_「学生による授業改善のためのアンケート」に関する「授業改善実施記録」の提出について_学部長 20231109-③-4
「学生による授業改善のためのアンケート」デモ画面 (教員用)
明星大学ウェブサイト {明星大学の情報公開 (2 明星大学の事業計画・事業報告・財務情報および教育改革への取組/ (3) 授業に関する学生アンケート) }
2023年度_自己点検・評価シート (理工学部 総合理工学科 物理学系)
2023年度_自己点検・評価シート (理工学部 総合理工学科 生命科学・化学系)
2023年度_自己点検・評価シート (理工学部 総合理工学科 機械工学系)
2023年度_自己点検・評価シート (理工学部 総合理工学科 電気電子工学系)
2023年度_自己点検・評価シート (理工学部 総合理工学科 環境科学系)
2023年度_自己点検・評価シート (人文学部 国際コミュニケーション学科)
2023年度_自己点検・評価シート (人文学部 日本文化学科)
2023年度_自己点検・評価シート (人文学部 人間社会学科)
2023年度_自己点検・評価シート (人文学部 福祉実践学科)
2023年度_自己点検・評価シート (経済学部 経済学科)
2023年度_自己点検・評価シート (情報学部 情報学科)
2023年度_自己点検・評価シート (教育学部 教育学科)
2023年度_自己点検・評価シート (経営学部 経営学科)
2023年度_自己点検・評価シート (デザイン学部 デザイン学科)
2023年度_自己点検・評価シート (心理学部 心理学科)
2023年度_自己点検・評価シート (建築学部 建築学科)
2023年度_自己点検・評価シート (データサイエンス学環)
2023年度_自己点検・評価シート (理工学研究科物理学専攻)
2023年度_自己点検・評価シート (理工学研究科化学専攻)
2023年度_自己点検・評価シート (理工学研究科機械工学専攻)
2023年度_自己点検・評価シート (理工学研究科電気工学専攻)
2023年度_自己点検・評価シート (理工学研究科建築・建設工学専攻)
2023年度_自己点検・評価シート (理工学研究科環境システム学専攻)
2023年度_自己点検・評価シート (人文学研究科国際コミュニケーション専攻)
2023年度_自己点検・評価シート (人文学研究科社会学専攻)

2023 年度_自己点検・評価シート (経済学研究科応用経済学専攻)
2023 年度_自己点検・評価シート (情報学研究科情報学専攻)
2023 年度_自己点検・評価シート (教育学研究科教育学専攻)
2023 年度_自己点検・評価シート (心理学研究科心理学専攻)
2023 年度_自己点検・評価シート {教育学部教育学科 (通信教育課程) }
2023 年度_自己点検・評価シート {教育学研究科教育学専攻 (通信教育課程) }
2023 年度_自己点検・評価シート (全学共通教育)
2023 年度_自己点検・評価シート (図書館)
2023 年度_自己点検・評価シート (情報科学研究センター)
2023 年度_自己点検・評価シート (国際教育センター)
2023 年度_自己点検・評価シート (連携研究センター)
2023 年度_自己点検・評価シート (明星教育センター)
2023 年度_自己点検・評価シート (心理相談センター)
2023 年度_自己点検・評価シート (発達支援研究センター)
2023 年度_自己点検・評価シート (教職センター)
2023 年度_自己点検・評価シート (アドミッションチーム)
2023 年度_自己点検・評価シート (学生サポートチーム)
2023 年度_自己点検・評価シート (就職チーム)
2023 年度_自己点検・評価シート (教務チーム)
2023 年度_自己点検・評価シート (総務チーム)
2023 年度_自己点検・評価シート (管財チーム)
2023 年度_自己点検・評価シート (財務・経理チーム)
2023 年度_自己点検・評価シート (経営企画チーム)
2023 年度_自己点検・評価シート (人事チーム)
2023 年度_自己点検・評価シート (ウェルネス・UD サポートチーム)
2023 年度_自己点検・評価シート (コンプライアンス室)
2023 年度_自己点検・評価シート (内部監査室)
2022 年度_明星大学自己点検・評価報告書に基づく改善提案について (答申) _学部長 20230608-③-3-1
2022 年度_自己点検・評価報告書_学部長 20230608-③-3-2
2022 年度_大学基礎データ_学部長 20230608-③-3-3
2022 年度_自己点検・評価【課題・問題点リスト】_学部長 20230608-③-3-4
明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価 (関連資料/明星大学 SD・FD に関する規程) }
明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価 (2. 各種方針/明星大学 SD・FD に関する基本方針) }
2023 年度_学部等と学長との意見交換会の実施について (依頼) _学部長 20230608-②-1-1
2023 年度_学部等と学長との意見交換会に係る回答用紙_学部長 20230608-②-1-2
「潜龍は徳を養い爪を研ぐ」 (2023 年度事業方針説明会資料)
明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価 (2. 各種方針/自己点検・評価の基本方針) }
2023 年度_内部質保証推進委員会 (第 1 回) 議事録
内部質保証／自己点検・評価 (評価の視点) 案
2021 年度_ (評価対象期間: 2021 年 4 月～2022 年 3 月) 自己点検・評価シート
2021 年度_内部質保証推進委員会 (第 1 回) 議事録
2023 年度_自己点検・評価のガイドライン
2023 年度_教育の内部質保証ガイドライン
2023 年度_明星大学内部質保証推進委員会 (第 2 回) 議事録
カリキュラムの効果を検証するためのアセスメントプランの作成について (依頼) _学部長 20221013-2-1
学位授与方針 (DP) 達成度評価の在り方およびアセスメントプランにおける DP 達成度評価の位置づけについて (答申) _学部長 20221013-2-2
「大学基準」別「点検・評価項目」への (検討中を含む) 対応状況一覧_学部長 20221013-2-3
アセスメントプラン作成に関する意見聴取結果について (報告) _学部長 20221208-10
2022 年度_ピア・レビュー取りまとめ結果_明星大学_自己点検・評価委員会
2022 年度_自己点検・評価、ピア・レビュー
2022 年度_明星大学自己点検・評価委員会 (第 2 回) 議事録
2021 年度_明星大学自己点検・評価報告書に基づく改善提案について (答申) _学部長 20220609-5-1

	2021 年度_自己点検・評価報告書_学部長 20220609-5-2
	2021 年度_大学基礎データ_学部長 20220609-5-3
	2021 年度_自己点検・評価【課題・問題点リスト】_学部長 20220609-5-4
	大学が定める各種の方針に関する意見聴取について（依頼）_学部長 20221110-3-1
	「大学基準」別「点検・評価項目」への対応状況一覧_学部長 20221110-3-2
	大学が定める各種の方針について（案）_大評 20230209-1
	2022 年度_第 4 回 大学評議会議事録
	2023 年度_内部質保証推進委員会（第 3 回）議事録
	明星大学ウェブサイト {教職課程に関する情報公開（（10）教職課程自己点検・評価報告書）}
	2024 年度_教職自己点検・評価 アクションプラン
	設置計画履行状況等調査の結果について（令和 2 年度）
	設置計画履行状況等調査の結果について（令和 3 年度）
	設置計画履行状況等調査の結果について（令和 4 年度）
	設置計画履行状況等調査の結果について（令和 5 年度）
	明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価（5. 認証評価結果/明星大学認証評価結果（2017 年度））}
	改善報告書
	改善報告書検討結果（明星大学）
	2022 年度_明星大学内部質保証推進委員会における外部評価結果について_学部長 20230511-③-7
	明星大学ウェブサイト {明星大学の情報公開}
	明星大学ウェブサイト {明星大学の情報公開（4 修学上の情報等/（6）学位論文に係る評価基準）}
	明星大学ウェブサイト {教職課程に関する情報公開}
	明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価（3. 自己点検・評価報告書）}
	明星大学ウェブサイト {明星大学の情報公開（2 明星大学の事業計画・事業報告・財務情報および教育改革への取組/（1）事業計画・事業報告）}
	外部評価制度の導入について（答申）_明星大学内部質保証推進委員会
	明星大学 内部質保証推進委員会 外部評価委員（案）
	2022 年度_明星大学内部質保証推進委員会（第 6 回）議事録
	「明星大学内部質保証の方針」および「明星大学内部質保証システム体系図」の改定について_学部長 20230713-③-7
	FD および SD の組織体制整備の方向性について（報告）_学部長 20221208-9-1
	今後の FD の在り方について（答申）_学部長 20221208-9-2
3 教育研究組織	明星大学ウェブサイト {学部・大学院}
	明星大学ウェブサイト {通信教育課程}
	明星大学ウェブサイト {教育研究機関}
	発達支援研究センターの廃止について_学部長 20230413-28
	「発達支援研究センターの廃止について」を 2023 年度第 1 回大学評議会に付議することについて_学部長 20230511-①-2
	発達支援研究センターの廃止について（案）_大評 20230511-2
	2023 年度_第 1 回 大学評議会議事録
	大学院改革案の実行にかかる今後の対応について_学部長 20230713-③-13
	建築学研究科 設置計画及び設置の趣旨について（案）_大評 20231109-2
	2023 年度_第 4 回 大学評議会議事録
	2023 年度_第 6 回 理事会議事録
	人文学研究科社会学専攻博士前期課程及び博士後期課程の学生募集停止について（案）_大評 20231109-1-1
	人文学研究科社会学専攻の廃止案について_大評 20231109-1-2
	2023 年度_第 7 回 理事会議事録
	学位プログラムの再活性化と再構築に向けた学長プロジェクトについて_学部長 20221208-19
	「学位プログラムの再活性化と再構築に向けた学長プロジェクト」の趣旨と進め方_学部長 20230112-8-1
	学位プログラムの再構築に向けた学長プロジェクト_学部長 20230112-8-2
	学位プログラムの再構築に向けた学長プロジェクト（キックオフ・ミーティング用資料）
	学位プログラム再構築学長プロジェクトメンバー
	次期学位プログラムに係る概要の提出について（依頼）_学部長 20231207-②-1

	次期学位プログラムに係る概要 検討結果 (理工学部)
	次期学位プログラムに係る概要 検討結果 (人文学部)
	次期学位プログラムに係る概要 検討結果 (経済学部)
	次期学位プログラムに係る概要 検討結果 (情報学部)
	次期学位プログラムに係る概要 検討結果 (教育学部)
	次期学位プログラムに係る概要 検討結果 (経営学部)
	次期学位プログラムに係る概要 検討結果 (デザイン学部)
	次期学位プログラムに係る概要 検討結果 (心理学部)
	次期学位プログラムに係る概要 検討結果 (建築学部)
	次期学位プログラムに係る概要 検討結果 (データサイエンス学環)
	次期学位プログラムの概要に関する意見交換会日程表
4 教育課程・学習成果	明星大学ウェブサイト {明星大学の情報公開 (3 教育研究上の基礎的な情報/ (2) 3つのポリシー 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)) }
	明星大学ウェブサイト {明星大学の情報公開 (3 教育研究上の基礎的な情報/ (2) 3つのポリシー 教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)) }
	明星大学ウェブサイト {カリキュラムマップ/カリキュラムツリー}
	カリキュラムマップの点検およびカリキュラムツリーの作成について (依頼) _学部長 20220310-5
	カリキュラムマップの点検について (手順) _学部長 20220310-5-2
	カリキュラムツリーの作成について (手順) _学部長 20220310-5-3
	カリキュラムツリー記入例_学部長 20220310-5-4
	カリキュラムマップの点検およびカリキュラムツリーの作成に関する Q&A_学部長 20220310-5-5
	1 単位当たりの学修時間について_学部長 20230914-③-5
	新型コロナウイルス感染拡大の対応に関する基本方針
	新型コロナウイルス感染防止のための学生の行動指針
	「新型コロナウイルス感染拡大の対応に関する基本方針」に基づく授業実施方法等について (案)_大評 20200324-1-2
	2019 年度_第 5 回 大学評議会議事録
	「対面授業以外の授業」の実施方法に関するガイドライン
	第 2 回「遠隔授業ミニシンポジウム」開催中 (明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」)
	明星キャリアデザインシート
	明星キャリアデザインシート説明動画
	2023 年度_出張講義実績
	4-14_高大連携教育への明星大学の取り組みに関する基本方針_学部長 20230112-18
	適正なカリキュラム運営のためのガイドラインの設定について_学部長 20221013-13
	2022 年度_第 11 回 内部質保証推進委員会議事録
	デザイン学科カリキュラム改正に関する確認結果について (報告)
	明星大学ウェブサイト {シラバス}
	教職課程の手引 2023
	早期履修生が履修できる単位数上限の変更について_大評 20231109-3
	2024 年度_シラバス作成要領
	2023 年度_シラバス (プロジェクト 1)
	2023 年度_シラバス (サマースクール 1 A (理論))
	2023 年度_シラバス (サマースクール 1 C (実習))
	2023 年度_シラバス (フィールドスタディ 1 (理論))
	2023 年度_シラバス (フィールドワーク 1 (実践))
	2023 年度_シラバス (映像翻訳 1 A (理論))
	2023 年度_シラバス (映像翻訳 1 B (理論))
	2023 年度_シラバス (映像翻訳 1 C (実習))
	2023 年度_シラバス (情報ワークショップ 2)
	2023 年度_シラバス (教育学基礎演習 1)
	2023 年度_シラバス (教育学基礎演習 2)
	2023 年度_シラバス (教育実践ゼミ 1)
	2023 年度_シラバス (教育実践ゼミ 2)
	2023 年度_シラバス (教育実践ゼミ 3)
	2023 年度_シラバス (企画表現 1 (対話・文章))
	2023 年度_シラバス (デザインプロジェクト A)

2023 年度_シラバス (デザインプロジェクトB)
2023 年度_シラバス (デザインプロジェクトC)
2023 年度_シラバス (デザインプロジェクトD)
2023 年度_シラバス (電気工学特論A)
2023 年度_シラバス (電気工学特論B)
2023 年度_他学部履修の履修手続について (履修ガイダンス資料)
明星大学ウェブサイト {明星 SATOYAMA プロジェクト}
クラス分け表 (教育学部教育学科)
科目別受講者数 (教育学部教育学科)
2023 年度_学生時間割表 (心理学部心理学科)
2023 年度_学生時間割表 (心理学研究科心理学専攻)
2023 年度_履修登録マニュアル (新入生・在学生用)
2023 年度_履修登録マニュアル (大学院用)
2023 年度_デザイン学部 アドバイザー制度について
学生への対応に関するアドバイザー業務
明星大学ウェブサイト {オフィスアワー}
明星大学入学者の既修得単位の認定に関する細則
「教学 IR データ」ウェブページ
2020 年度_前期末の定期試験及び成績評価に関するガイドラインについて_学部長 20200611-21-1
『明星大学学則』および『明星大学教則』抜粋_学部長 20200611-21-2
「対面授業以外の授業」の実施方法に関するガイドライン_学部長 20200611-21-3
登校禁止期間終了後の 8 月 4 日までの本学の対応について_学部長 20200611-21-4
2023 年度_明星大学心理学会 第 18 回大会 事前説明書
教学 IR データについて_学部長 20230511-③-9-1
教学 IR データの見方_学部長 20230511-③-9-2
学籍異動_学部長 20230511-③-9-3-1
1 年生 GPA_全学共通科目_学部長 20230511-③-9-3-2
1 年生 GPA_学科科目_学部長 20230511-③-9-3-3
1 年生 GPA_全科目_学部長 20230511-③-9-3-4
1 年生 GPA 散布図 前期_学部長 20230511-③-9-3-5
1 年生 GPA 散布図 後期_学部長 20230511-③-9-3-6
1 年生 GPA 散布図 年間_学部長 20230511-③-9-3-7
2 年生 GPA・履修単位数・修得単位数 (年間) 全科目_学部長 20230511-③-9-3-8
2 年生 GPA・履修単位数・修得単位数 (年間) 全学共通科目_学部長 20230511-③-9-3-9
2 年生 GPA・履修単位数・修得単位数 (年間) 学科科目_学部長 20230511-③-9-3-10
2 年生 GPA 散布図 年間_学部長 20230511-③-9-3-11
3 年生 GPA・履修単位数・修得単位数 (年間) 全科目_学部長 20230511-③-9-3-12
3 年生 GPA・履修単位数・修得単位数 (年間) 全学共通科目_学部長 20230511-③-9-3-13
3 年生 GPA・履修単位数・修得単位数 (年間) 学科科目_学部長 20230511-③-9-3-14
3 年生 GPA 散布図 年間_学部長 20230511-③-9-3-15
科目別成績評価分布 全学共通科目_学部長 20230511-③-9-3-16
科目別成績評価分布 学科科目 (理工学部)_学部長 20230511-③-9-3-17-1
科目別成績評価分布 学科科目 (人文学部)_学部長 20230511-③-9-3-17-2
科目別成績評価分布 学科科目 (経済学部)_学部長 20230511-③-9-3-17-3
科目別成績評価分布 学科科目 (情報学部)_学部長 20230511-③-9-3-17-4
科目別成績評価分布 学科科目 (教育学部)_学部長 20230511-③-9-3-17-5
科目別成績評価分布 学科科目 (経営学部)_学部長 20230511-③-9-3-17-6
科目別成績評価分布 学科科目 (デザイン学部)_学部長 20230511-③-9-3-17-7
科目別成績評価分布 学科科目 (心理学部)_学部長 20230511-③-9-3-17-8
科目別成績評価分布 学科科目 (建築学部)_学部長 20230511-③-9-3-17-9
科目別成績評価分布 全学共通教職・資格科目等_学部長 20230511-③-9-3-18
新入生向け入学時アンケートの集計結果について_学部長 20230511-③-10-1
新入生向け入学時アンケート (サマリー)_学部長 20230511-③-10-2
新入生向け入学時アンケート (詳細データ)_学部長 20230511-③-10-3
教学 IR データ (1 年生 GPA 全学共通科目)_学部長 20230914-③-10-1
教学 IR データ (1 年生 GPA 学科科目)_学部長 20230914-③-10-2
教学 IR データ (1 年生 GPA 全科目)_学部長 20230914-③-10-3

	教学 IR データ (1 年生 GPA 散布図 前期) _学部長 20230914-③-10-4
	2023 年度_前期必修科目 学位プログラム別成績評価分布_学部長 20230914-③-10-5
	「ALCS 学修行動比較調査結果の提供」ウェブページ
	DP 達成度評価の運用に向けたコード設定および今後のスケジュールについて (案) (内部質保証推進委員会資料)
	学修ポートフォリオ補足資料
	DP 達成度評価の可視化システム導入に向けた担当教員の選出について (依頼) _学部長 20230713-②-4
	2022 年度_環境科学系「学習の手引」
	環境科学系 評価 (成果) 指標 (E-ECOSHIP と DP の対応)
	学生別達成度評価システムレポート (明星 LMS)
	学生別達成度評価システムレポート提出例 (明星 LMS)
	DP 達成度評価に関わる評価指標の策定 (案) 概要 (日本文化学科)
	DP 達成度記録ファイル (案) (日本文化学科)
	卒論評価シート
	経済学部経済学科ディプロマ・ルーブリック
	企画表現 1 (対話・文章) のルーブリック
	企画表現 2 (調査・分析) のルーブリック
	企画表現 3 (発想・思考) のルーブリック
	企画表現 4 (プレゼンテーション) のルーブリック
	明星大学デザイン学部ウェブサイト {社会で活躍する OB・OG インタビュー④}
	明星大学デザイン学部ウェブサイト {社会で活躍する OB・OG インタビュー⑤}
	2022 年度_教育学部 第 1 回 FD 研修会 次第
5 学生の受け入れ	アドミッションポリシーへの評価方法・基準の付記について (案) _大評 20230511-3-1
	各学科の AP と評価方法・評価基準に関する付記_大評 20230511-3-2
	アドミッションポリシーへの評価方法・基準の付記について (案) _大評 20230608-2-1
	「AP と評価基準・評価方法に関する付記」の修正について (申請) (国際コミュニケーション学科) _大評 20230608-2-2
	「AP と評価基準・評価方法に関する付記」の修正について (申請) (人間社会学科) _大評 20230608-2-3
	AP への評価基準・評価方法の付記 (大学院) _大評 20230608-2-4
	2023 年度_第 2 回 大学評議会議事録
	明星大学ウェブサイト {明星大学の情報公開 (3. 教育研究上の基礎的な情報/ (2) 3 つのポリシー/入学者に関する受入方針 (アドミッションポリシー) }
	明星大学ウェブサイト {入試情報 (入試基本情報/アドミッションポリシー) }
	明星大学ウェブサイト {入試情報 (試験区分一覧・学生募集要項) }
	明星大学ウェブサイト {入試情報 (大学院入学試験/大学院アドミッションポリシー) }
	明星大学ウェブサイト {大学院入学試験 (大学院入学試験概要/大学院学生募集要項・出願書類) }
	「3 つの方針策定のための全学的な基本方針」の改定について (案)
	3 つの方針策定のための全学的な基本方針 新旧対照表
	3 つの方針の改定手順 (案)
	2024 年度_大学院学生募集要項 (抜粋)
	OPEN CAMPUS 2023
	明星大学ウェブサイト {「経営学部 VR オープンキャンパス」を開催します ～ オープンキャンパスの人気コンテンツを VR で「そのまま」実現～}
	2023 年度_明星大学進学説明会 開催のご案内 (高校教員対象進学説明会資料)
	面接・口頭試問対策ガイドブック
	明星大学ウェブサイト {受験生の方}
	高大接続ダイレクトアクセス (明星大学画面)
	学びの探究入試 (リーフレット)
	明星大学入学者選考規程
	明星大学大学院入学者選考規程
	2024 年度_全学入試実施本部 議事次第
	2024 年度_入学試験における実施体制について
	2024 年度_入学試験 組織図

	明星大学入学者選考規程 改正の趣旨及び新旧対照表 (決裁資料)
	明星大学大学院入学者選考規程 改正の趣旨及び新旧対照表 (決裁資料)
	明星大学全学入試実施本部細則 制定の趣旨及び制定 (決裁資料)
	明星大学全学入試運営委員会細則 制定の趣旨及び制定 (決裁資料)
	2023 年度_第 5 回_全学入試運営委員会 (2024 年度募集 年内入学試験の実施に関する留意事項について)
	明星大学大学院入学資格審査委員会細則
	明星大学ウェブサイト {【受験生の方】新型コロナウイルス等感染拡大に伴う入学試験の対応について}
	大学院の将来像検討会
	大学院の新たな人材養成機能の重点化と博士後期課程の募集停止に関する意見聴取について_学部長 20221110-8-1
	大学院の新たな人材養成機能の重点化と博士後期課程の募集停止について_学部長 20221110-8-2
	大学院の機能重点化と博士後期課程廃止に関する意見聴取結果報告と博士後期課程活性化案作成の依頼について_学部長 20230112-7-1
	大学院の機能重点化と博士後期課程廃止に関する各学部、研究科からの意見聴取結果まとめ_学部長 20230112-7-2
	博士後期課程の活性化案作成依頼について_学部長 20230112-7-3
	博士後期課程活性化案 (理工学研究科)
	博士後期課程活性化案 (国際コミュニケーション学専攻)
	博士後期課程活性化案 (経済学研究科)
	博士後期課程活性化案 (情報学研究科)
	博士後期課程活性化案 (教育学研究科)
	博士後期課程活性化案 (通信制大学院教育学研究科)
	博士後期課程活性化案 (心理学研究科)
	モニタリングシート (理工学研究科)
	モニタリングシート (人文学研究科)
	モニタリングシート (経済学研究科)
	モニタリングシート (情報学研究科)
	モニタリングシート (教育学研究科)
	モニタリングシート (心理学研究科)
	2023 年度入試分析報告会の開催について (明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」)
	総合型選抜入試小論文の出題について (2022 年 2 月経済学部 FD 研修会資料)
6 教員・教員組織	明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価 (2. 各種方針/大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編成に関する方針) }
	大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編成に関する方針 (明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」)
	学校法人明星学苑法人教職員任用規程
	明星大学教員人事選考委員会細則
	2023 年度_教員人事計画に係る資料の提出について (依頼)_学部長 20211111-5-1
	2024 年度_教員人事計画に係る資料の提出について (依頼)_学部長 20221110-4-1
	2024 年度_教員人事計画 (補正) に係る資料の提出について (依頼)_学部長 20231109-②-3-1
	学校法人明星学苑ティーチング・アシスタント及びスチューデント・アシスタントに関する規程
	全学共通教育委員会委員一覧_学部長 20230413-12-5
	明星大学全学共通教育委員会運営細則
	2023 年度_全学共通科目検討結果について_学部長 20211209-10-1
	2023 年度_全学共通科目:『現代社会での自分の生き方を考える』_学部長 20211209-10-2
	2023 年度_全学共通科目:『現代社会での自分の生き方を考える』 (大学評議会原案見え消し版) (参考資料)_学部長 20211209-10-3
	2021 年度_第 8 回_学部長会議事録
	学校法人明星学苑教員等の選任等に関する規程
	学校法人明星学苑大学教員選考の基準に関する規程
	明星大学教員人事選考委員会細則
	明星大学大学院教員資格審査細則
	学校法人明星学苑常勤教員に関する規程
	学校法人明星学苑特任教員に関する規程

「明星大学内部質保証の方針」について (案) _大評 20210210-2
2020 年度_第 5 回 大学評議会議事録
2023 年度_専任教員 FD 参加率
平成 30 年度_第 1 回 全学 FD 研修会について_学部長 300614-15
高等教育の現在と明星教育 (2018 年度 第 1 回 全学 FD 研修会資料)
高等教育の現在と明星教育 (2018 年度 第 1 回 全学 FD 研修会ポスター)
平成 30 年度_第 1 回 全学 FD 研修会 出席者数・出席率
2018 年度_第 2 回 全学 FD 研修会について_学部長 301108-9
教職員で考える学生の成長と授業改善 (2018 年度 第 2 回 全学 FD 研修会資料)
教職員で考える学生の成長と授業改善 (2018 年度 第 2 回 全学 FD 研修会ポスター)
平成 30 年度_第 2 回 全学 FD 研修会 出席者数・出席率
2019 年度_第 1 回 全学 FD 研修会について_学部長 20190711-9
新たな明星大学教育を構想する (2019 年度 第 1 回 全学 FD 研修会資料)
新たな明星大学教育を構想する (2019 年度 第 1 回 全学 FD 研修会レジュメ)
2019 年度_第 1 回 全学 FD 研修会 出席者数・出席率
2019 年度_第 2 回 全学 FD 研修会について_学部長 20191212-14
アセスメントテストの結果活用について (2019 年度 第 2 回 全学 FD 研修会資料)
2019 年度_第 2 回 全学 FD 研修会 出席者数・出席率
2020 年度_第 1 回 全学 FD 研修会について_学部長 20200709-14
2020 年度_第 1 回 人文学部 FD 研修会 (人文学部)
遠隔授業の運営方法と課題の情報共有 (情報学部)
明星 LMS の使い方 (第 1 弾) (教育学部)
明星 LMS の使い方 (第 2 弾) (教育学部)
2020 年度_経営学部 前期 FD 概要 (経営学部)
オンラインによる授業をよりよいものとするための取り組み (デザイン学部)
建築学部 FD 活動の概要 (建築学部)
通信教育課程スクーリング 4 つの授業モデル (通信教育部)
明星 LMS の使い方 (2020 年度夏期スクーリング) (通信教育部)
全学初年次教育「自立と体験 1」オンライン化の取り組み 振り返り (明星教育センター)
全学共通必修科目「自立と体験 1」 新入生 2,105 名×全学横断のグループワークをオンラインで成立させた舞台裏 (明星教育センター)
2020 年度_第 1 回 全学 FD 研修会 出席者数・出席率
2020 年度_第 2 回 全学 FD 研修会について_学部長 20201210-6
内部質保証の重要性 (2020 年度 第 2 回 全学 FD 研修会資料 1)
「点検・評価項目」及び「評価の視点 (参考資料)」 (2020 年度 第 2 回 全学 FD 研修会資料 2)
講師略歴 (2020 年度 第 2 回 全学 FD 研修会資料 3)
内部質保証の重要性について (2020 年度 第 2 回 全学 FD 研修会ポスター)
2020 年度_第 2 回 全学 FD 研修会 出席者数・出席率
2021 年度_第 1 回 全学 FD 研修会について_学部長 20210708-10
キャリア教育・支援 (2021 年度 第 1 回 全学 FD 研修会資料)
2021 年度_第 1 回 全学 FD 研修会 出席者数・出席率
2021 年度_第 2 回 全学 FD 研修会について_学部長 20220210-11-1
2024 年卒業生の就職活動について (2021 年度 第 2 回 全学 FD 研修会資料 1)
新卒採用経験者が語る本学の印象 (2021 年度 第 2 回 全学 FD 研修会資料 2)
2021 年度_第 2 回 全学 FD 研修会 出席者数・出席率
2022 年度_第 1 回 全学 FD 研修会について (答申)
2022 年度_第 1 回 全学 FD 研修会について
2022 年度_第 2 回 全学 FD 研修会について_学部長 20221208-11-1
関東学院大学における事例紹介 (2022 年度 第 2 回 全学 FD 研修会資料 1)
第 3 期認証評価を受審した大学による説明会 (2022 年度 第 2 回 全学 FD 研修会資料 2)
2022 年度_第 2 回 全学 FD 研修会 出席者数・出席率
【ご案内】2023 年度全学 FD の開催について (明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」)
明星大学キャリア教育・キャリア支援グランドデザイン (概念図) (2023 年度 第 1 回 全学 FD 研修会資料 1)
全学生に共通で提供されているキャリア形成科目を理解する (2023 年度 第 1 回 全学 FD 研修会資料 2)

	全学共通新カリキュラムにおける「クロッシング授業」に関する報告（2023年度 第2回 全学FD研修会資料1）
	「つなぐ学びの場：「世界の言葉と文化を知る」「外国語」（2023年度 第2回 全学FD研修会資料2）
	「多摩科目」の概要と活用に向けて（2023年度 第2回 全学FD研修会資料3）
	2023年度全学FDの企画意図について（2023年度 第2回 全学FD研修会資料4）
	明星大学版DSLの特色と各学部の学位プログラムとの協働を目指した展開（2023年度 第3回 全学FD研修会資料）
	2023年度_部局別FD計画書（理工学部）
	2023年度_部局別FD計画書（人文学部）
	2023年度_部局別FD計画書（経済学部）
	2023年度_部局別FD計画書（情報学部）
	2023年度_部局別FD計画書（教育学部）
	2023年度_部局別FD計画書（経営学部）
	2023年度_部局別FD計画書（デザイン学部）
	2023年度_部局別FD計画書（心理学部）
	2023年度_部局別FD計画書（建築学部）
	2023年度_部局別FD計画書（データサイエンス学環）
	2023年度_部局別FD計画書（理工学研究科）
	2023年度_部局別FD計画書（人文学研究科）
	2023年度_部局別FD計画書（情報学研究科）
	2023年度_部局別FD計画書（経済学研究科）
	2023年度_部局別FD計画書（教育学研究科）
	2023年度_部局別FD計画書（心理学研究科）
	2023年度_部局別FD計画書（全学共通教育委員会）
	2023年度_部局別FD報告書（理工学部）
	2023年度_部局別FD報告書（人文学部）
	2023年度_部局別FD報告書（経済学部）
	2023年度_部局別FD報告書（情報学部）
	2023年度_部局別FD報告書（教育学部）
	2023年度_部局別FD報告書（経営学部）
	2023年度_部局別FD報告書（デザイン学部）
	2023年度_部局別FD報告書（心理学部）
	2023年度_部局別FD報告書（建築学部）
	2023年度_部局別FD報告書（データサイエンス学環）
	2023年度_部局別FD報告書（理工学研究科）
	2023年度_部局別FD報告書（人文学研究科）
	2023年度_部局別FD報告書（情報学研究科）
	2023年度_部局別FD報告書（経済学研究科）
	2023年度_部局別FD報告書（教育学研究科）
	2023年度_部局別FD報告書（心理学研究科）
	2023年度_部局別FD報告書（全学共通教育委員会）
	教員諸活動の可視化方法・指標・その活用について（答申）
7 学生支援	明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価（2.各種方針/学生支援に関する方針）}
	学生支援に関する方針（明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」）
	明星大学ウェブサイト {ユニバーサルデザインセンター（UDセンター）/障がいのある学生および志願者支援に係る理念等}
	明星大学ウェブサイト {MEISEI HUB}
	イベント実施状況について_MEISEI HUB MT
	明星学苑創立100周年記念事業 生成AI・ChatGPT展（@MEISEI HUB）のご案内_学部長 20230914-③-2-1
	生成AI・ChatGPT展（常設展）_学部長 20230914-③-2-2
	ChatGPT トークセッション_学部長 20230914-③-2-3
	勤労奨学生と明星大学について語ろう！～学生が変わる！大学を変える～ アンケート集計結果
	2023年度「学業不振学生」への取組みに係る見直しについて_学部長 20221013-17-1
	2016-2020 入学者 GPA1.0 未満結果_学部長 20221013-17-2

学部別「学業不振」「GPA1.0未満」の比較_学部長 20221013-17-3
2023年度「学業不振学生」への面談について_学部長 20230413-5-1
2023年度「学業不振学生(2年次以上)」の対象学生数_学部長 20230413-5-2
2023年度「学業不振学生」への取組みに係る見直しについて_学部長 20230413-5-3
2023年度_留年見込学生への通知(修学支援システム「勉天」)
物理演習案内(明星LMS)
寺子屋案内(明星LMS)
学習相談予約フォーム(心理学部)
明星大学ウェブサイト{ユニバーサルデザインセンター(UDセンター)/支援内容}
障がい学生支援ハンドブック
明星大学ウェブサイト{奨学金(奨学金制度等/奨学金のしおり)}
学校法人明星学苑奨学金規程の改正について(2020年度_第9回 理事会報告)
海外留学の奨学金制度の見直しについて(2023年度_第3回 理事会・第3回 常任理事会報告)
明星大学ウェブサイト{新型コロナウイルス感染拡大の影響に係る本学学生への経済的支援について}
新型コロナウイルス感染症の影響に伴う修学支援緊急奨学金の創設および募集開始について(ご案内)_学部長 20201112-16-1
明星大学メール奨学金 募集要項_学部長 20201112-16-2
明星大学サポート奨学金 募集要項_学部長 20201112-16-3
明星大学ウェブサイト{国際教育センター(語学教育活動)}
明星大学ウェブサイト{国際教育センター(留学)}
2024年度_入学生(年内入試合格者)対象「入学準備教育」の実施について_学部長 20231012-③-5
明星大学ウェブサイト{保健管理室/ステューデント・サロン/学生相談室}
明星大学診療所(保護者のための明星大学ガイドブック)
明星学苑ウェブサイト{明星学苑コンプライアンスについて(明星学苑コンプライアンスの取り組み)}
学校法人明星学苑コンプライアンス基本規程
学校法人明星学苑ハラスメントの防止等に関する規程
学校法人明星学苑ハラスメント不服申立てに関する細則
2022年度_日野校コンプライアンスeラーニング研修の実施について_学部長 20221013-23
明星学苑ウェブサイト{ハラスメント防止(学校法人明星学苑 ハラスメントの防止等に関するガイドライン(電子ブック))}
ハラスメント相談員名簿(明星LMS)
ハラスメント相談員 対応マニュアル
全学共通科目・全学共通キャリア形成科目について(明星教育センター資料)
本学のキャリア教育とキャリア支援のあり方および接続について(答申)_学部長 20220414-24-1
明星大学 キャリア教育・キャリア支援 グランドデザイン(概念図)_学部長 20220414-24-2
学長の諮問委員会等の変更および見直しについて_学部長 20230209-5
全学キャリア教育検討委員会の現状、並びにキャリア教育の連携における依頼について
キャリア教育の連携に係る全学キャリア教育検討委員会委員と明星教育センター教員との情報交換について
2023年度_就職委員会メンバー
明星大学ウェブサイト{教職センター}
【1年生】2022年度 教職課程に係る年間スケジュールについて(教職課程G資料)
【2年生】2022年度 教職課程に係る年間スケジュールについて(教職課程G資料)
【3年生】2022年度 教職課程に係る年間スケジュールについて(教職課程G資料)
【4年生】2022年度 教職課程に係る年間スケジュールについて(教職課程G資料)
明星大学ウェブサイト{「小学校教員就職者数ランキング」で明星大学が全国7位、私立大学では2位になりました}
明星大学ウェブサイト{課外活動(学友会)}
明星大学ウェブサイト{2024年度 総合型選抜I期 スポーツ・文化活動優秀者枠 セレクションについて}
課外活動の再開について
明星大学全学学生生活委員会細則
規程の改正について(案)_大評 20230608-1-1
明星大学交換留学に関する細則 改正の趣旨及び新旧対照表(案)_大評 20230608-1-2
明星大学認定留学に関する細則 改正の趣旨及び新旧対照表(案)_大評 20230608-1-3

8 教育研究等環境	明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価 (2. 各種方針/教育研究等環境の整備に関する方針)}
	教育研究等環境の整備に関する方針 (明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」)
	明星学苑における施設の改修および修繕計画方針
	2023 年度_施設設備計画(案)と昨年度作成案との比較表(明星大学)
	中期(5年)施設設備整備計画 (日野校・青梅校) 優先順位
	2022 年度_施設設備長期(10年)修繕計画 (日野校・青梅校)
	明星大学ウェブサイト {キャンパスマップ (日野校)}
	日野校無線 LAN 設備の更新_一般起案
	BYOD 斡旋販売のお知らせ内容 (UCARO)
	2024 年度_明星大学 学部・学科毎 BYOD パソコン推奨スペック一覧表
	情報センターの利用 (仮想 Windows 環境の利用について)
	教職員メールシステムの Microsoft365 移行について_学部長 20230914-③-11-2
	学外からのアクセスにおける多要素認証の導入について_学部長 20230309-24
	Teams の学生利用開始について_学部長 20231012-③-6
	2023 年度_遠隔会議システム (Zoom) ライセンス更新について_一般起案
	職員用ノート PC の配布について
	シラバス (情報の活用と倫理)
	2023 年度_大学・短期大学・高等専門学校図書館調査票
	明星大学図書館ウェブサイト {概要/明星大学図書館について}
	【図書館】郵送による貸出の受付を開始しました
	2023 年度_第 1 回 勤労奨学生研修資料
	2023 年度_第 2 回 勤労奨学生研修資料
	図書館勤労奨学生 図書館実務体験マニュアル
	新規採用図書館勤労奨学生 研修業務内容 チェック表
	「誰でも BOOK PICK(ブック ピック)」を開催します
	明星大学図書館ウェブサイト {貴重書コレクション}
	2023 年度_学部等予算の配分方針について (案)_学部長 20230413-1-2
	2023 年度_若手研究・重点支援研究費の公募について_学部長 20230413-16-1
	2023 年度_若手研究・重点支援研究費公募要領_学部長 20230413-16-2
	2023 年度_若手研究・重点支援研究費 研究計画書 記入要領
	2023 年度_若手研究・重点支援研究費 研究計画書
	2022 年度_若手研究・重点支援研究費 配分一覧_学部長 20220714-12
	2023 年度_若手研究・重点支援研究費 配分一覧_学部長 20230713-③-4
	学校法人明星学苑大学特別研究期間制度に関する規程
	学校法人明星学苑大学特別研究期間制度に関する細則
	2024 年度_「特別研究期間制度」適用「特別研究員」の推薦について_学部長 20230413-3-1
	2024 年度_以降の特別研究員の派遣人数について (2022 年度 第 9 回 理事会決定)_学部長 20230413-3-2
	様式第 1-1 号～第 1-3 号_学部長 20230413-3-3
	様式第 2-1 号～第 2-4 号_学部長 20230413-3-4
	2024 年度_『大学特別研究期間制度』適用『特別研究員』について (案)_学部長 20230713-①-3
	平成 31 年度_『大学特別研究期間制度』適用『特別研究員』について (案)_学部長 300712-1
	2020 年度_『大学特別研究期間制度』適用『特別研究員』について (案)_学部長 20190711-1
	2021 年度_『大学特別研究期間制度』適用『特別研究員』について (案)_学部長 20200709-1
2022 年度_『大学特別研究期間制度』適用『特別研究員』について (案)_学部長 20210708-1	
2023 年度_『大学特別研究期間制度』適用『特別研究員』について (案)_学部長 20220714-1	
科研費応募勉強会動画 (2023 年 8 月 9 日開催)	
連携研究センター (20 号館) 共同利用施設の有期貸与について_学部長 20230914-③-12	
「産学交流会 2023」開催報告	
明星大学の「今」を見る。これからの時代を見据える。(産学交流会 2023 チラシ)	
期間限定「講義収録ヘルプデスク」の開設について_学部長 20210311-22	
明星大学ウェブサイト {研究活動等における不正防止体制/関連資料}	
2023 年度_研究活動における不正行為等及び研究費の不正使用の防止・対策に係る防止計画のモニタリング実施について (依頼) 学部長 20231207-②-3-1	
2023 年度_明星大学 研究活動における不正行為等及び研究費の不正使用等の防止・対策に関する基本方針に基づく防止計画 実施状況チェックリスト_学部長 20231207-②-3-2	

	2023 年度_明星大学 研究活動における不正行為等及び研究費の不正使用等の防止・対策に関する基本方針に基づく防止計画 実施状況チェックリスト <チェックポイント>_学部長 20231207-②-3-3
	2023 年度の研究倫理教育 (e ラーニング) の実施について_学部長 20230511-③-1
	2024 年度_学生への研究倫理教育について (依頼) _学部長 20240111-③-7-1
	ルールを守って適正なレポートを作成しよう (対象: 学部 1 年、2 年) _学部長 20240111-③-7-2
	研究倫理を守って大学で学ぶために (対象: 学部・大学院全学年) _学部長 20240111-③-7-3
	論文剽窃チェックツール (明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」)
	2023 年度_研究倫理審査スケジュール_学部長 20230112-14-1
	明星大学産学公連携活動に伴う利益相反マネジメントに関する規程
	明星大学安全保障輸出管理規程
	「チャット GPT」の利用方針を検討する学長プロジェクトの設置について_学部長 20230413-8
	チャット GPT の利用方針に係る検討プロジェクトの構成員について (報告) _学部長 20230511-③-14
	生成系 AI に対する明星大学の方針について_学部長 20230713-③-8-1
	チャット GPT の利用方針に係る検討プロジェクト報告_学部長 20230713-③-8-2
	生成系 AI に対する明星大学の方針について
9 社会連携・社会貢献	明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価 (2. 各種方針/社会連携・社会貢献に関する方針)}
	社会連携・社会貢献に関する方針 (明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」)
	明星大学ウェブサイト {地域交流センター}
	明星大学ウェブサイト {ボランティアセンター}
	明星大学連携研究センターウェブサイト {連携研究センターについて (明星大学の連携研究ポリシー)}
	あきる野市と学校法人明星学苑明星大学との包括的な相互協力・連携に関する協定書
	青梅市と明星大学との連携協力に関する協定書
	多摩市と明星大学の連携に関する基本協定書
	日野市と明星大学との相互協力・連携に関する包括協定書
	八王子市と学校法人明星学苑明星大学との包括連携に関する協定書
	明星大学ウェブサイト {地域交流マップ (日野市との合同研修会)}
	明星大学ウェブサイト {地域交流マップ (「東京 2020 オリンピック・パラリンピック日野市ボランティアユニフォーム」をデザイン)}
	明星大学ウェブサイト {地域交流マップ (「東京 2020 オリンピック・パラリンピック日野市ボランティアユニフォーム」が完成、点火セレモニーで着用されました)}
	日野市ウェブサイト {東京都日野市でレジ袋削減のための実証実験 (レジごみ袋の導入) ~ 明星大学デザイン学部の学生発案! デザイン・PR 方法を活かしたスーパーマーケット及びコンビニエンスストアにおける実践 ~}
	明星大学デザイン学部ウェブサイト {立川活性化プロジェクト 2022}
	明星大学デザイン学部ウェブサイト {立川活性化プロジェクト 2023}
	明星大学ウェブサイト {地域交流マップ (明星大学×紀の國屋によるコラボ商品「まん福」を発売 ~2 つの自治体をつなぐお土産品を学生が考案~)}
	多摩信用金庫ウェブサイト {TAMA NEXT リーダープログラム (後継者塾)}
	明星大学ウェブサイト {経営学部 TAMA NEXT リーダープログラム 15 期生 修了式が行われました}
	明星大学連携研究センターウェブサイト {研究シーズ}
	明星大学ウェブサイト {人文学部人間社会学科 熊本ゼミの学生が「第 9 回 多摩の学生 まちづくり・ものづくりコンペティション 2023」で奨励賞を受賞しました}
	明星大学ウェブサイト {この秋、明星大学が「多摩共創企画 2023」を展開 ~地域とその未来に役立つ大学を目指して、4 つの企画を開催します~}
	明星学苑ウェブサイト {高校生アントレプレナーズチャレンジ TAMA}
	明星大学ウェブサイト {学生が立案した都民提案「誰もが使いやすい東京都防災アプリ」が予算額 1 億 7,600 万円にて都予算案に反映されました}
	「はじめのいっぽ」チラシ (2023 年 9 月~12 月)
	明星大学ウェブサイト {心理相談センター}
	明星大学ウェブサイト {発達支援研究センター}
	明星大学ウェブサイト {情報学部と情報科学研究センターが無料オンライン公開講座「はじめてのサイバーセキュリティ演習」を開講 ~ポストコロナ時代のサイバーセキュリティ~}
	Web フォーム導入による学内の問い合わせ対応効率化_情報処理学会研究報告

	留学生への国際交流イベント紹介画面（明星 LMS）
	明星大学ウェブサイト {地域交流マップ}
10 大学運営・財務 (1) 大学運営	明星大学ウェブサイト {内部質保証、点検・評価 (2. 各種方針/大学の運営に関する方針) }
	大学の運営に係る方針 (明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」)
	学校法人明星学苑規程集 (2024 年 3 月時点)
	改定予定規程一覧表 {2024 年 4 月 1 日改正 (2024 年 3 月 31 日廃止) }
	学校法人明星学苑規程集 (明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」)
	学校法人明星学苑大学学長候補者選考規程
	学校法人明星学苑大学学長候補者選考規程施行細則
	学校法人明星学苑組織管理規程
	学校法人明星学苑大学学部長候補選考規程
	学校法人明星学苑明星大学大学院研究科長候補選考規程
	明星大学学長の諮問委員会に関する細則
	明星大学教授会運営細則
	明星大学学環教授会運営細則
	明星大学通信教育代表委員会運営細則
	2023 年度_事務局ミーティングメンバー及び日程表
	学校法人明星学苑理事会業務委任規程
	学校法人明星学苑理事会業務委任規程施行細則
	2023 年度_学校法人明星学苑 役員及び評議員名簿
	学校法人明星学苑学苑運営会議規程
	学校法人明星学苑危機管理基本規程
	安否確認システムについて (2023 年度 教授者便覧抜粋)
	2023 年度_事業継続計画 (大規模地震編) 【日野校】
	緊急駆けつけ要員 (別紙 1)
	危機対策本部資機材リスト (別紙 2-1)
	災害時優先電話① (本館 302 会議室) (別紙 2-2)
	IP 無線機マニュアル (301SJ) (別紙 2-3)
	明星大学 防災備蓄品一覧 (場所別数量) (別紙 3)
	地震損傷チェックリスト (別紙 4)
	学生待機要領 (別紙 5)
	地域住民対応 (別紙 6)
	情報システム班行動チェックリスト (別紙 7)
	各部署の復旧対応詳細 (別紙 8)
	災害発生時期によって必要となる特別対応 (別紙 9)
	学校法人明星学苑防火・防災管理規程
	学校法人明星学苑コンプライアンス基本規程
	学校法人明星学苑リスク管理基本規程
	学校法人明星学苑公益通報等に関する規程
	学校法人明星学苑個人情報保護規程
	学校法人明星学苑個人情報取扱規程
	学校法人明星学苑ハラスメントの防止等に関する規程
	学校法人明星学苑労働安全衛生管理規程
	明星大学安全保障輸出管理規程
	学校法人明星学苑予算管理規程
	明星学苑ウェブサイト {学校法人明星学苑の組織図}
	学校法人明星学苑諮問委員会に関する規程
	職員人事制度
	2023 年度_学部長会 構成員・陪席者一覧_学部長 20230413-11-2
2023 年度_大学業務ミーティング 構成員一覧	
ミッションノート、チャレンジノート、ベースジョブノートの作成方法について	
ミッションノート (チームリーダー用)	
チャレンジノート (シニアスタッフ・スタッフ用)、ベースジョブノート	
2022 年度_第 1 回 SD (スタッフ・ディベロップメント) の実施について	
2023 年度開設「データサイエンス学環」について (2022 年度 第 1 回 SD 資料)	
2022 年度_第 1 回 全学 SD 参加率・アンケート結果	

	内部質保証システムの構築を目指したこれまでの取り組みと今後の課題（2023年度 第1回 全学SD資料）
	2023年度_第1回_全学SD参加率・アンケート結果
	学校法人明星学苑監事監査規程
	2018年度_監査報告書（監事）
	2019年度_監査報告書（監事）
	2020年度_監査報告書（監事）
	2021年度_監査報告書（監事）
	2022年度_監査報告書（監事）
	2023年度_監査報告書（監事）
	2018年度_監査報告書（会計士）
	2019年度_監査報告書（会計士）
	2020年度_監査報告書（会計士）
	2021年度_監査報告書（会計士）
	2022年度_監査報告書（会計士）
	2023年度_監査報告書（会計士）
	学校法人明星学苑内部監査規程
	学校法人明星学苑内部監査実施細則
	2022年度_内部監査計画書
	明星大学「公的研究費（科学研究費補助金等）」に関する監査結果報告
	明星大学「自己点検・評価活動」に関する監査結果報告
	明星大学「教員研究助成費」に関する監査結果報告
	「学苑・大学事務局 教務ユニット（教育学部、全学共通教育）」定期監査 結果報告
	2023年度_内部監査計画書
10 大学運営・財務 （2）財務	2018年度_決算書
	2019年度_決算書
	2020年度_決算書
	2021年度_決算書
	2022年度_決算書
	2023年度_決算書
	2018年度_財産目録
	2019年度_財産目録
	2020年度_財産目録
	2021年度_財産目録
	2022年度_財産目録
	2023年度_財産目録
	5ヵ年連続財務計算書類（様式7-1）

明星大学提出・閲覧用準備資料一覧（実地調査）

	資料の名称	
1 理念・目的	連続市民講座「わたしたちの多摩」	
	勤労奨学生と明星大学について語ろう！実施概要_20231215	
	勤労奨学生と明星大学について語ろう！アンケート集計結果_20231215	
	学友会・委員会・特待生・勤労生と職員とのしゃべり場実施概要_20240902	
	学友会・委員会・特待生・勤労生と職員とのしゃべり場アンケート集計結果_20240902	
	「明星大学 ビジョン（案）」及び「明星大学 教育目標（案）」における意見聴取の実施について_学部長 20210909-8	
	Next100 ビジョン策定委員会において策定中の「明星大学 ビジョン（案）」及び「明星大学 教育目標（案）」における意見聴取の実施（明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」）	
	Next100 ビジョン策定委員会において策定中の「明星大学 ビジョン（案）」及び「明星大学 教育目標（案）」における意見聴取結果	
	「明星学苑 ビジョン」及び各設置校・園のビジョンと教育目標について（明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」）	
	「明星学苑創立 100 周年記念ロゴ」募集のお知らせ（明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」）	
	明星学苑創立 100 周年記念ロゴが決定しました（明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」）	
	2 内部質保証	2012 年度第 5 回研究科長連絡会次第
		ディプロマポリシーの策定について（手順）
2013 年度第 3 回研究科長連絡会次第		
カリキュラムポリシーの策定について（手順）		
アドミッションポリシーの策定手順について		
「3 つの方針策定のための全学的な基本方針」の改定について（答申）（案）		
3 つの方針策定のための全学的な基本方針_新旧対照表		
明星大学大学院教則（別表第 4）研究科・専攻の人材の入学者受け入れ方針		
授業改善実施記録入力画面		
授業改善実施記録入力事例		
2023 年度 明星大学自己点検・評価報告書に基づく改善提案について（答申）_学部長 20240606_③-02-1		
2023 年度 課題・問題点リスト_学部長 20240606_③-02-6		
実地調査に向けた各学部等の状況整理について（依頼）		
実地調査に向けた各学部等の状況整理について（設問出題）		
実地調査に向けた各学部等の状況整理について（結果報告）		
明星大学ウェブサイト {大学院入学試験（大学院入学試験概要/大学院学生募集要項・出願書類）}		
デザイン学部独自の授業アンケートについて		
明星大学デザイン学部ウェブサイト {社会で活躍する OB・OG インタビュー①}		
明星大学デザイン学部ウェブサイト {社会で活躍する OB・OG インタビュー③}		
明星大学デザイン学部ウェブサイト {社会で活躍する OB・OG インタビュー④}		
明星大学デザイン学部ウェブサイト {社会で活躍する OB・OG インタビュー⑤}		
明星大学デザイン学部ウェブサイト {学校推薦型入試の事前面談について【2025 年度入試】}		
明星大学デザイン学部ウェブサイト {総合型選抜などでの出願を検討している皆さんへ【2024 年度入試】}		
明星大学デザイン学部ウェブサイト {学校推薦型選抜での出願を検討している皆さんへ【2024 年度入試】}		
2024 年度第 6 回経営学部臨時教授会（人事）次第		
1 年生 GPA_全科目_学部長 20230511-③-9-3-4		
2 年生 GPA・履修単位数・修得単位数（年間）全科目_学部長 20230511-③-9-3-8		
3 年生 GPA・履修単位数・修得単位数（年間）全科目_学部長 20230511-③-9-3-12		
2 年生 GPA 散布図 年間_学部長 20230511-③-9-3-11		
3 年生 GPA 散布図 年間_学部長 20230511-③-9-3-15		
教育学研究科（通学）モニタリングシート		

	教育学研究科（通信）モニタリングシート
	理工学研究科モニタリングシート
	情報学研究科モニタリングシート
	明星大学教育情報の公開に関する細則
	2023年度_自己点検・評価のガイドライン
	教学監査と教育の内部質保証について（内部質保証担当副学長作成）
3 教育研究組織	明星大学ウェブサイト {明星大学の数理・データサイエンス・AI 教育}
	大学業務ミーティングレジュメ 20230607（記録メモ）
4 教育課程・学習成果	2023年度教育学部カリキュラムマップ、カリキュラムツリー
	2024年度キャリア形成科目科目別履修者数一覧
	谷戸の生活史 明星大学開学以前の程久保
	学内で伐採された樹木で制作したスウェーデントーチの検証企画
	みとりワークショップ+フィールドワーク
	イオンモール多摩平の森×明星大学 体験型イベント 「いきもの調査隊」
	「いきもの調査隊」ポスター
	2023年度「明星 SATOYAMA プロジェクト」事業報告書
	人文学部 IR 勉強会 資料
	経済学部 IR 勉強会 資料
	企画表現4（プレゼンテーション）授業計画書
	DP 達成度評価シート（化学専攻）
	2023年度「自己点検・評価シート」の検証結果
5 学生の受け入れ	高大コネクト 高校への情報発信
	明星大学がすべての学生に提供している教育について
6 教員・教員組織	人文学部 SDFD 研修会 参加者関連データ
	教職センターにおける教職協働に係る取り組み一覧
	外部講師による科研費応募勉強会について（明星学苑教職員向けポータルサイト「StarNet」）
	明星大学理工学部教員の任用に係る内規
	明星大学理工学部特任教員選考の基準に関する内規
	明星大学人文学部教員選考内規
	人文学部教員選考に関する業績評価基準
	明星大学人文学部常勤教員の選考・再任に関する内規
	明星大学人文学部特任教員の選考・再任に関する内規
	明星大学経済学部特任教員選考の基準に関する内規
	経済学部教員資格審査（昇任時）の基準に関する内規
	経済学部教員資格審査（採用時）の基準に関する内規
	明星大学情報学部特任教員選考の基準に関する内規
	明星大学教育学部特任教員選考の基準に関する内規
	経営学部教員選考手続に関する内規等
	教員採用人事 デザイン学部 内規
	教員昇任人事 デザイン学部 内規
	建築学部_教員の任用人事選考に関する内規
	建築学部_教員の昇任人事選考に関する内規
	建築学部_任期付教員の再任用に関する内規
	明星大学大学院理工学研究科教員資格審査基準内規
	明星大学大学院理工学研究科教員資格審査運営内規
	明星大学大学院人文学研究科教員資格審査に関する内規
	人文学研究科担当教員資格基準
	明星大学大学院情報学研究科担当教員資格審査に関する内規
	情報学専攻担当教員資格審査基準
	明星大学大学院心理学研究科教員資格審査に関する内規、教員資格審査基準
	明星大学明星教育センター特任教員の選考基準および再任の手続き等に関する内規
	明星大学明星教育センター常勤教員の選考基準および再任の手続き等に関する内規
	2023年度第1回人事計画委員会 答申

	2023 年度第 2 回人事計画委員会 答申
	2024 年度第 1 回人事計画委員会 答申 (日野校)
	2024 年度第 1 回人事計画委員会 答申 (府中校)
	建築学部 TASA の業務「建築基礎設計製図」「建築設計製図 2」
	建築学部 TASA の業務「建築材料実験」
	DSL における TA・SA への研修について
	2024 年度 SA 業務説明会
	2024 年度「学びとキャリア」SA 基本業務一覧
	2023 年度_部局別 FD {テーマ・対象者数・出席者数・出席率} まとめ
	2024 年度全学 FD 講師の選出手続きについて (案)
7 学生支援	人文学部福祉実践学科 2023 年度学科会議議事録
	2023 年度卒業判定結果について_学部長 20240411_③_12-01
	2023 年度進級判定結果について_学部長 20240411_③_12-02
	2024 年度旧カリキュラム単位読替説明会資料 英語 (3 年生)
	明星大学人文学部日本文化学科ウェブサイト
	人間社会学科所属学生による宿泊を伴う学外研修活動に対する補助に関する取り決め (内規)
	2023 年度社会福祉士国家試験対策講座日程
	「ビジネス英会話」シラバス
	「ACA Illustrator CC 試験対策講座」「インテリアコーディネーター検定対策講座」のお知らせ
	「Web デザイナー検定対策講座」「Photoshop2022 試験対策講座」「カラーコーディネーター検定対策講座」のお知らせ
	デザイン学部面接評価シート
	2023 年度建築学科新入生ガイダンス資料
	基礎解析学補充講義のお知らせ
	ユニバーサルデザインセンター活動報告 2022 年 3 月
	ユニバーサルデザインセンター活動報告 2023 年 3 月
	ユニバーサルデザインセンター活動報告 2024 年 3 月
	学生相談室相談者数推移
	2023 第 1 回 全学学生生活委員会次第
	2023 第 2 回全学学生生活委員会次第
	2023 第 3 回 (臨時) 全学学生生活委員会次第
	2023 第 4 回全学学生生活委員会次第
	2023 第 5 回 (臨時) 全学学生生活委員会次第
	2023 第 6 回全学学生生活委員会次第
	2023 第 7 回 (臨時) 全学学生生活委員会次第
	2023 第 8 回 (臨時) 全学学生生活委員会次第
	2023 第 9 回全学学生生活委員会次第
	2023 第 10 回 (臨時) 全学学生生活委員会次第
	2023 第 11 回 (臨時) 全学学生生活委員会次第
	2023 第 12 回全学学生生活委員会次第
	2023 第 13 回 (臨時) 全学学生生活委員会次第
8 教育研究等環境	コンプライアンス研修参加実績
	「情報の活用と倫理」成績評価分布 (2019-2022)
	「データサイエンスリタラシー」成績評価分布 (2023)
	明星大学図書館ブログ「2024 年 3 月図書館勤労奨学生研修を行いました」
	「第 1 回勤労奨学生によるブックフェア「夏休みチャレンジ一星に願いを、夏に挑戦をー」開催のお知らせ」
	研究実験室等の面積に関する資料
	専任教員担当コマ数総括表_学部長 20240711_③-06-4
	2023 年度「特別研究期間制度」適用「特別研究員」の推薦について_学部長 20220414-03-01
	2020 年度以降の特別研究員の派遣人数について/理事会決定_学部長 20220414-03-02
	2024 年度 科学研究費助成事業の採択結果について (速報値)_学部長 20240314_③_11
	2023 年度防止計画実施状況 (各部局報告)_学部長 20240314_③_09-02
	2023 年度防止計画実施状況 (防止計画実施部署等報告)_学部長 20240314_③_09-03
	明星大学科学研究費助成事業執行の手引き

	第5回 MEISEI HUB 実施運営ミーティング MEISEI HUB 運営ミーティング内規
9 社会連携・社会貢献	国際交流の活動実績 (23～24 年度状況) 東京商工会議所 産学公連携相談窓口 八王子商工会議所 出前研究室 明星大学産学交流会 2023 日野市工業推進協議会委員名簿 明星大学ウェブサイト {地域交流センター} 2024 年度自己点検・評価のガイドライン
10 大学運営・財務 (1) 大学運営	明星学苑 2023 年度教職員満足度調査報告書【事務職員】 2022 年度_第1回 全学 SD 参加率・アンケート結果 2023 年度_第1回 全学 SD 参加率・アンケート結果
その他	明星大学における内部質保証の取り組み【学長プレゼン資料】 明星大学就職ガイド 2024 大学院活性化に向けた今後の対応について_学部長 20230713-③-13 2022 年度_自己点検・評価【課題・問題点リスト】_学部長 20230608-③-3-4 教学 IR データについて_学部長 20230511-③-9-1 DP 達成度評価の可視化システム導入に向けた担当教員の選出について (依頼)_学部長 20230713-②-4 01_明星 SATOYAMA【理工学部_柳川】 02_明星 SATOYAMA【デザイン学部_萩原】 03_明星 SATOYAMA【経営学部_大森】 04_明星 SATOYAMA【経営学部_安岡】 05_明星 SATOYAMA【理工学部_齊藤】 プロジェクト報告会 (参加者名簿) 参加者人数メモ 化学・生命科学実験 3 TA 用資料 研修実施報告 1 研修実施報告 2 人文④【TASA 関係】接遇研修アジェンダ 人文⑤N034 基準 6-1 2023 年 4 月 3 日新入生ガイダンス進行 (SA との打ち合わせ資料) 人文⑥N034 基準 6-2 社会福祉入門 SA 準備_当日の流れ 20230618 人文⑦基準 6-3 発足式用 SA 配布資料: 社会福祉入門シラバス (案) 人文⑧基準 6-4 地域ニーズ開発における SA の役割資料 人文⑨ 基準 6-5 学生用 2023 年度オープンキャンパス学生 SA マニュアル TA・SA について (情報学部・情報学研究科) 教育学部 TASA 業務伝達方法 表現スキル_SA 依頼 表現応用 A (レイアウト) SA の依頼 24_履修ガイダンス 234 年生用 SA 募集のスクリーンショット DS 学環-11-02_【SA・非常勤講師向け】24AUT_DSL の仕組み TA・SA について (DS 学環) 20241027 経済学研究科 TA 業務説明 (2022 2023) 確定版_大学院ガイダンス配付資料_20240403 (1) TASA 一覧表 基準 9 (社会連携・社会貢献) 適切性の評価について (回答) 0_第3回議事次第 1_2024 年度第3回全学 SD・FD 委員会の開催について 2_2024 年度全学 FD 講師の選出手続きについて (案) 0_第4回議事次第 1_2024 年度第4回全学 SD・FD 委員会の開催について 2_2024 年度全学 FD 講師の推薦について (依頼) 01_2024 年度自己点検・評価シート①【理工学部・生命科学・化学系】

02_2024年度自己点検・評価シート①【人文学部・人間社会】
02_2024年度自己点検・評価シート①【人文学部・国際コミュニケーション学科】
03_2024年度自己点検・評価シート①【経済学部】
05_2024年度自己点検・評価シート①【教育学部】
06_2024年度自己点検・評価シート①【経営学部】
08_2024年度自己点検・評価シート①【心理学部】
22_2024年度自己点検・評価シート①【人文学研究科国際コミュニケーション専攻】
23_2024年度自己点検・評価シート①【経済学研究科】
26_2024年度自己点検・評価シート①【心理学研究科】
基準 10 (大学運営・財務) 部局レベルでの自己点検・評価に対する支援について (回答)

明星大学提出資料一覧（意見申立）

	資料の名称
8 教育研究等環境	2021 年度の本学の対応_学部長 20210408-14
	2021 年度学生募集要項（総合型選抜）
	明星大学ウェブサイト {【新1年生対象】パソコン講習会の開催について}